# 目　次

**1．一般社団法人盛岡青年会議所2021年度事業報告**

1）2021年度を振り返って（2021年度　理事長　田屋舘　真留久）…… 4

2）総会報告（１月通常、２月通常、９月通常）…… 6

3）各種事業報告…… 7

4）例会報告…… 15

5）各種大会報告…… 23

6）各委員会及び出向者報告…… 29

7）2021年度卒業生・新入会員名簿…… 34

8）2021年度出向者名簿 …… 35

9）2021年度出向者報告 …… 36

10）監事講評…… 39

**2．2022年度理事長所信** …… 42

**3．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度スローガン・基本理念・基本方針** …… 46

**4．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度各委員会事業計画** …… 47

**5．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度当初予算** …… 56

**6．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度役員・役職名簿** …… 61

**7．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度出向者名簿** …… 62

**8．一般社団法人盛岡青年会議所2022年度組織図** …… 63

**9．2021年度年間スケジュール** …… 64

# JCI綱領

## The Creed of Junior Chamber International

We Believe;
That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

我々はかく信じる：
「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営されるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

## JCI Mission

To provide development opportunities that empower young people to create positive change.
よりよい変化をもたらす力を青年に与えるために
発展・成長の機会を提供すること

## JC宣言

日本の青年会議所は
希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き
社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

## JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.
若き能動的市民の主導的なグローバルネットワークになること

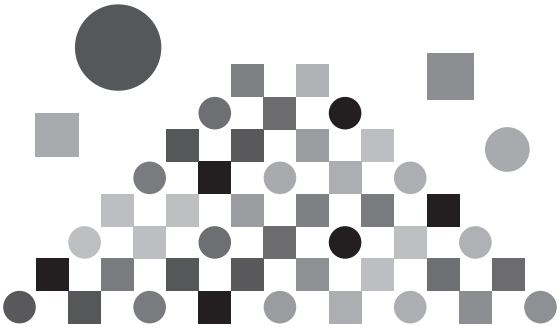
## 綱領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう。

## 東北JC宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

# 2021年度事業報告



強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

# 一般社団法人 盛岡青年会議所
# 2021年度を振り返って

一般社団法人盛岡青年会議所
2021年度　第69代理事長
**田屋舘　真留久**

**2021年を振り返ってみて**

私たちの出会いは必然だったのか。それとも偶然だったのか。

地球規模の新型コロナウイルス感染症パンデミックは必然だったのか、それとも偶然だったのか。大切なもの、大切にしなければならないものをひとに気づかせるための神の思し召しだったのか。その答えは誰にもわかりませんが、withコロナ時代を生きていく私たちは「誰のために、何のために心を燃やし、厚く情熱を傾け行動を起こすのか。」一人ひとりが問われていたのではないでしょうか。

さらには、「誰もが自分らしく生き、ひとが補い合い、助け合うことが大切である。」つまりは人間の尊厳の尊重や多様性の享受に加え、パートナーシップの重要性を再認識できたのではないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の拡大は環境･社会･経済それぞれの観点において私たちの日常生活に多大な影響を及ぼしました。このコロナ禍で環境・社会・経済のそれぞれにおける問題が一気に顕在化するとともに深刻化しました。社会経済活動は非接触であることを求められ既存の形式から変化し、オンライン化が促進されました。この日常生活における変化は、私たちの価値観や行動を大きく変容させました。

日本全国では三度にわたる緊急事態宣言の発令、そして、岩手県においても独自の緊急事態宣言が発令されるなど、2020年に引き続き2021年も新型コロナウイルス感染症とは切っても切り離せない一年となりました。また、COP26で顕在化した国家間での分断、紛争によって起きている食糧・教育・ジェンダーなどにかかわる様々な問題の複雑化、偏見や差別によって起きる誹謗中傷、子供や女性の自殺率の上昇。心の分断が顕在化された出来事が多くあった一方で、スポーツと平和の祭典である東京オリンピック・パラリンピックにおいて、選手の挑戦する姿や、応援をチカラに変えることができたと応援に感謝する姿には大きな感動がありました。また、松山英樹選手のマスターズ制覇や大谷翔平選手の満票でのMVP獲得などをはじめ、数多く生まれた史上初の快挙は私たちに勇気を与え、挑戦する活力をもたらしてくれました。

**私たちが目指す未来**

2021年、盛岡青年会議所は「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」をスローガンに掲げ、SDGsの達成をビジョンとして運動を展開してまいりました。持続可能な開発目標SDGs（Sustainable Development Goals）は、長期的且つグローバルな目標であり、何より包括的で誰にでも当てはまる目標です。SDGsの達成は、明るい豊かな社会の実現と同様に難しいことのように感じるかもしれませんが決してそうではありません。一人ひとりの目前にある課題解決に向けた行動は、すべてSDGsの達成と明るい豊かな社会の実現に繋がっています。個人･家庭･企業･地域･日本などのそれぞれの階層に課題は存在しています。だからこそ、すべてのひとが目前の課題解決に挑戦し、その挑戦を周りのひとが応援できる世の中が理想の社会なのです。

私たちは多様なひとの集合体です。青年会議所に入会した目的も違えば人生の目的も違います。そのような集合体が、大きな力を発揮するためには明確なビジョンが必要です。同じ目的に向かって共に行動するからこそ、一人では決して到達できないであろう景色を目にすることができ、世の中に大きなインパクトを与えることができます。そして、前向きな変化を促すには発展・成長の機会を提供することが必要不可欠であり、且つ世の中により良い変化をもたらすためには公平に機会を提供することが重要です。

**【環境】** 目標6．安全な水とトイレを世界中に
目標13．気候変動に具体的な対策を
目標14．海の豊かさを守ろう
目標15．陸の豊かさも守ろう

強く、優しく
～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

【社会】 目標1．貧困をなくそう
目標2．飢餓をゼロに
目標3．すべての人に健康と福祉を
目標4．質の高い教育をみんなに
目標5．ジェンダー平等を実現しよう
目標7．エネルギーをみんなに そしてクリーンに
目標11．住み続けられるまちづくりを
目標16．平和と公正をすべての人に
【経済】 目標8．働きがいも経済成長も
目標9．産業と技術革新の基盤をつくろう
目標10．人や国の不平等をなくそう
目標12．つくる責任 つかう責任

**現代に必要なリーダーとは**

15歳で藩主となり藩政を指揮しなければならなかった上杉鷹山公は、自身の心境と覚悟を「受次て　国の司の　身となれば　忘るまじきは　民の父母」と詠っています。

領民の父となり母となる、このような表現はそれほどめずらしくありませんが、鷹山公は人間に対する深い情愛があり、弱い者に対して手を差しのべることを施策としていました。さらには、自身を取り巻いている諸々の悪条件をすべて当然のことと肯定し、何かを成し遂げるには当たり前のことを一所懸命に努力する以外に道はないことを教えてくれています。ひとは自分自身を理解することが実は一番難しいことかもしれません。ひとは自らの弱さを認めたときにこそ「強く、優しく」いられます。反対に自らの力を過信したときには、その傲慢さによって身を滅ぼします。

今の時代に必要なリーダー像とは、自らの信念のもと常に謙虚に自らを律し、自らの心を奮い立たせ、他者への深い情愛をもって、自らが他者に模範を示し、率先して行動する鷹山公の姿そのものではないでしょうか。

**私たちの挑戦**

「なせば成る　なさねば成らぬ　何事も　成らぬは人のなさぬなりけり」と鷹山公は詠っています。

2021年は、まさにこの詩の精神性で5室5委員会が下記の【基本方針】とテーマを基軸として活動してきました。
【もりおかに住み暮らすすべてのひとと共に住み続けたいまちを実現する】→経済
【未来のあるべき姿を描き、すべての子供たちが挑戦できる社会を創造する】→社会
【民間外交の価値を再認識し、すべてのひとと共にSDGsの達成に向けて行動する】→環境
【青年会議所の価値を再認識し、アクティブシチズンを増やす】→パートナーシップ
【広報メディア戦略に挑戦し、市民意識変革運動の価値を拡げる】→パートナーシップ
発展・成長の機会を公平に提供することによって、一人ひとりの力を引き出し高め（エンパワーメント）、多様性を享受し個人の尊厳を尊重することによって、ひとを別け隔てることなく、すべてのひとを思いやりの心で包み（インクルージョン）、例会・事業の開催基準案を設け、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に左右されることなく運動を展開し、変化にしなやか且つ強靭に適応し復元する力（レジリエンス）が発揮されました。この三要素によって、もりおかにより良い変化をもたらし、諸先輩方が築いてこられた他団体や企業との繋がりを活かしパートナーシップをより強固にすることができたと確信しています。

SDGsのそれぞれの目標は独立しているものではなく、統合的に取り組む必要があり、すべての目標に相関関係があります。それぞれの委員会が違うベクトルで行動するのではなく、同じビジョンに向かって協働することによって統合的に課題解決し大きなインパクトを与えることができました。

ひとの心の分断は顕在化するだけでなく深刻化しています。

2011年の東日本大震災の発災から10年が経過しましたが、同種の偏見や差別が未だに存在しています。このような時代だからこそ、私たちは不断に自己を変革できるHEROとしての強さと優しさを兼ね備え、全てのひとが幸福を実感できるようにもりおかに前向きな変化を促し続ける必要があるのです。

私たちはもりおかに前向きな変化を起こすために、己を信じ、仲間を信頼し、誇りをもって運動を展開してきました。SDGsの達成をビジョンとし、発展・成長の機会を公平に提供することを使命として一年間活動してきた成果が、既に表れているひともいれば、近未来に表れてくるひともいるでしょう。2021年に盛岡青年会議所の展開した運動による強靭さ溢れる成果については各委員会や出向者からの報告をご覧いただきたく存じます。

**より良い未来に向けて新たな挑戦**

一般社団法人盛岡青年会議所は2022年度で創立70周年を迎えます。大和田祐輔君を理事長として「幸福へ向けて一歩を踏み出そう　～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～」をスローガンに掲げ、「ひととの繋がりを掛け合わせながら、前向きな変化を促し、互いの尊厳を尊重し、誰一人取り残さないために一歩を踏み出せる環境を創る」ことを基本理念として、明るい豊かな社会の実現へ向けて力強く一歩を踏み出します。

結びに、これまで盛岡青年会議所の運動に対しご理解の上でのご協力を賜りましたすべての皆様に心より感謝を申し上げるとともに、2022年度へ引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。

# １月通常総会

１月９日（土）に盛岡グランドホテルにて、1月通常総会が開催されました。１月通常総会では、各委員会年間事業計画、各会計当初予算、理事追加選任に関して、会員から了承を得るために開催し、議長である豊岡淳君の適切な議事進行のもと、2021年度のスタートを切ることが出来ました。その後行われましたセレモニーの部では、第64代から第68代までの歴代理事長により、2021年度理事長の田屋舘真留久君へプレジデンシャルリースの伝達がなされました。リース伝達式の後、田屋舘真留久理事長より挨拶を頂き、セレモニーの部を閉会致しました。

# ２月通常総会

２月26（金）にアートホテル盛岡にて、２月通常総会が開催されました。通常総会は年に３回（１月、２月、９月）行われる盛岡青年会議所全体の会議であり、２月通常総会では2020年度の各事業の報告と収支決算、そして2021年度の各会計修正等に関して、会員から承認を得るために開催致しました。多くの案件がありましたが、議長である藤原大修君の適切な議事進行のもと、全議案は満場一致をもって、承認可決されました。

# ９月通常総会

９月29日（水）に盛岡青年会議所事務所およびzoomにて、９月通常総会が開催されました。９月通常総会は2022年度の理事予定者ならびに監事予定者、理事長候補者ならびに役員候補者の選任に関して、会員から承認を得るために開催致しました。議長である吉田将太君の適切な議事進行のもと、全議案は満場一致をもって、承認可決されました。選任された理事予定者ならびに監事予定者、また承認した会員一同ともに、緊張感をもって進められた総会でした。

2021年度［各種事業報告］

# 強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

# 2021年度　年間スケジュール

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盛岡 | 常任理事会 | 13日(水) | 9日(火) | 9日(火) | 6日(火) | 11日(火) | 8日(火) |
| | 理事会 | 27日(水) | 24日(水) | 23日(火) | 20日(火) | 25日(火) | 22日(火) |
| 岩手ブロック協議会 | 正副会長会議 | | | | | | |
| | 役員会議 | 14日(木) | 10日(水) | 12日(金) | 13日(火) | 12日(水) | 15日(火) |
| | 会員会議所会議 | 30日(土)<br>【一関】 | 27日(土)<br>【江刺】 | 20日(土)<br>【カシオペア】 | 24日(土)<br>【水沢】 | 22日(土)<br>【陸中宮古】 | |
| | ブロック行事 | | | | 会頭公式訪問 | | 26日(土)<br>ブロック大会<br>50周年記念式典<br>【陸前高田】 |
| | いわて<br>JAYCEE<br>アカデミー | | 6日(土)<br>新春のつどい<br>アカデミー開校式<br>【北上】 | 6日(土)<br>アカデミー<br>第1講座<br>【大船渡】 | | 15日(土)<br>アカデミー<br>第2講座<br>【WEB】 | |
| | 各LOM事業 | | | | | | |
| 東北地区協議会 | 正副会長<br>拡大会議 | 13日(水)<br>【WEB】 | 3日(水)<br>【WEB】 | 3日(水)<br>【WEB】 | 2日(木)<br>【WEB】 | 6日(木)<br>【WEB】 | 2日(水)<br>【WEB】 |
| | 財政コンプライアンス<br>審査会議 | 18日(月)<br>【WEB】 | 8日(月)<br>【WEB】 | 8日(月)<br>【WEB】 | 5日(月)<br>【WEB】 | 10日(月)<br>【WEB】 | 7日(月)<br>【WEB】 |
| | 役員会議 | 20日(水)<br>【WEB】 | 17日(水)<br>【WEB】 | 17日(水)<br>【WEB】 | 14日(水)<br>【WEB】 | 19日(水)<br>【WEB】 | 16日(水)<br>【WEB】 |
| | 会員会議所会議 | 22日(金)<br>【京都】 | | | | | |
| | 地区行事 | | | | | | |
| 正副会頭会議<br>(月初) | | 28日(木)<br>(移動) | 25日(木)<br>(移動) | | 1日(木)<br>(移動)<br>28日(水)<br>(移動) | | 3日(木)<br>(移動)<br>30日(水)<br>(移動) |
| 正副会頭会議<br>(月中／WEB) | | 7日(木)<br>(JC会館) | 10日(水)<br>(WEB) | 5日(金)<br>(WEB) | 8日(木)<br>(WEB) | 7日(金)<br>(WEB) | 10日(木)<br>(WEB) |
| 常任理事会 | | 15日(金) | 19日(金) | 9日(火) | 16日(金) | 14日(金) | 18日(金) |
| 理事会 | | 22日(金)<br>(京都) | 20日(土) | 10日(水) | 17日(土) | 15日(土) | 19日(土) |
| ブロック会長会議 | | | | | | | |
| 総会 | | 23日(土)<br>(京都) | | 27日(土)<br>(東京) | | | |
| JCI諸会議 | | JCI常任理事会/理事会<br>(JCI JEM/JBM) | | | | アメリカ地域会議<br>20日(水)<br>～23日(土)<br>アフリカ・中東地域会議 | アジア・太平洋地域会議<br>ヨーロッパ地域会議 |
| NOM主要事業 | | 京都会議<br>(京都)<br>21日(木)<br>～24日(日) | | | | | |
| 財政審査会議 | | 9日(土)<br>10日(日) | 13日(土)<br>14日(日) | 6日(土)<br>7日(日) | 10日(土)<br>11日(日) | 8日(土)<br>9日(日) | 5日(土)<br>6日(日) |
| 公益審査会議 | | 9日(土) | 13日(土) | 6日(土) | 10日(土) | 8日(土) | 5日(土) |
| コンプライアンス<br>審査会議 | | 9日(土) | 13日(土) | 6日(土) | 10日(土) | 8日(土) | 5日(土) |
| その他 | | JCI諸会議・大会　開催地<br>【JCI常任理事会/理事会】アメリカ(セントルイス)　【中間常任理事会】アメリカ(セントルイス)<br>【アメリカ地域会議】パナマ(パナマ)　【アフリカ・中東地域会議】ヨルダン(アンマン)　【ヨーロッパ地域会議】ドイツ(ロストック) | | | | | |

# 2021年度　年間スケジュール

| | | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盛岡 | 常任理事会 | 6日(火) | 10日(火) | 7日(火) | 5日(火) | 2日(火) | 9日(木) |
| | 理事会 | 20日(火) | 24日(火) | 21日(火) | 19日(火) | 16日(火) | 21日(火) |
| 岩手ブロック協議会 | 正副会長会議 | | | | | | |
| | 役員会議 | 14日(水) | 4日(水) | 15日(水) | 13日(水) | 4日(木) | 6日(月) |
| | 会員会議所会議 | 24日(土)<br>【大船渡】 | 28日(土)<br>【ZOOM】 | 25日(土)<br>【久慈】 | 24日(日)<br>【花巻】 | 13日(土)<br>【北上】 | 11日(土)<br>【盛岡】 |
| | ブロック行事 | | | | | 13日(土)<br>謝恩会<br>【北上】 | |
| | いわて<br>JAYCEE<br>アカデミー | | 21日(土)<br>アカデミー<br>第３講座<br>【県内各地】 | | 23日(土)<br>アカデミー<br>第４講座<br>【陸前高田】 | | |
| | 各LOM事業 | | | | | | |
| 東北地区協議会 | 正副会長拡大会議 | 7日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 4日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 8日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 6日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 5日(金)<br>【ＷＥＢ】 | |
| | 財政コンプライアンス審査会議 | 12日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 9日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 13日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 14日(木)<br>【ＷＥＢ】 | 8日(月)<br>【ＷＥＢ】 | |
| | 役員会議 | 21日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 26日(木)<br>【ＷＥＢ】 | 22日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 21日(木)<br>【ＷＥＢ】 | 12日(金)<br>【ＷＥＢ】 | |
| | 会員会議所会議 | | | | | 13日(土)<br>【青森】 | |
| | 地区行事 | | | 9月4日(土)～9月5日(日)<br>東北青年フォーラム<br>【郡山】 | | | |
| 正副会頭会議<br>(月初) | | | | 2日(木)<br>(移動)<br>27日(月)<br>(移動) | | 4日(木)<br>(移動) | 6日(月)<br>(移動) |
| 正副会頭会議<br>(月中／ＷＥＢ) | | 8日(木)<br>(ＷＥＢ) | | 9日(木)<br>(ＪＣ会館) | 1日(金)<br>(ＷＥＢ) | 11日(木)<br>(ＷＥＢ) | 16日(木)<br>(ＪＣ会館) |
| 常任理事会 | | 15日(木) | | 17日(金) | 5日(火) | 26日(金) | 17日(金) |
| 理事会 | | 16日(金)<br>(横浜) | | 18日(土) | 8日(金)<br>(宇都宮) | 27日(土) | 18日(土) |
| ブロック会長会議 | | | | | | | |
| 総会 | | | | | 8日(金)<br>(宇都宮) | | |
| JCI諸会議 | | JCI中間常任理事会<br>(JCI MYE) | | | | JCI世界会議<br>16日(火)<br>～20日(土) | |
| NOM主要事業 | | サマーコンファレンス<br>(横浜)<br>17日(土)<br>～18日(日) | | 国際アカデミー<br>(仙台)<br>20日(月)<br>～24日(金) | 全国大会<br>(とちぎ宇都宮)<br>7日(木)<br>～10日(日) | | |
| 財政審査会議 | | 10日(土)<br>11日(日) | | 4日(土)<br>5日(日) | 3日(日)<br>4日(月) | 13日(土)<br>14日(日) | 11日(土)<br>12日(日) |
| 公益審査会議 | | 10日(土) | | 4日(土) | 3日(日) | 13日(土) | 11日(土) |
| コンプライアンス審査会議 | | 10日(土) | | 4日(土) | 3日(日) | 13日(土) | 11日(土) |
| その他 | | 【アジア・太平洋地域会議】台湾(台中)　【世界会議】南アフリカ(ヨハネスブルグ) | | | | | |

# まちの未来創造事業の企画・運営（10月事業）

**■事業目的**

**（対内目的）**

- もりおかの社会状況･経済状況の変化を理解すること。
- 他者の価値観や考え方を理解し、理想のまちの実現に向けた行動へ繋げること。

**（対外目的）**

- もりおかの社会状況･経済状況の変化を理解すること。
- 他者の価値観や考え方を理解し、理想のまちの実現に向けた行動へ繋げること。

**■日時**

2021年10月２日　Zoomによるオンライン開催

**■事業報告**

新型コロナウイルス感染症が盛岡広域圏の各市町に与えた影響やそれぞれが抱える課題について、各種統計資料から把握し、その解決策について学生の皆様や市民の皆様と意見やアイディアを出し合い共有する事業をオンライン開催致しました。

各市町の取り組みに対する多角的な視点でのご意見や、抱える課題の解決策についての非常に斬新なアイディアも多く挙げられ、ご参加いただいた皆様におかれましても、もりおかの状況を改めて見つめ直し、取り組むことを考えることで、一層もりおかを好きになって頂くことができたと感じております。

「理想のまち」の実現に向け、一人一人が現状を正確に把握し、可能性を探り、行動し続ける契機となりました。

# 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 主催団体の一員として盛岡さんさ踊りへの参加意識を向上させること。
- 太鼓､踊りの技術向上を図ること。

**（対外目的）**

- 盛岡さんさ踊りの魅力を知り、担い手としての意識を持つこと。
- 太鼓、踊りの技術向上を図ること。

**■日時･場所**

2021年６月９日　盛岡八幡宮

**■事業報告**

６月から７月にかけ、計９回、盛岡さんさ踊り練習会を開催致しました。

盛岡さんさ踊りが開催されると信じ練習を重ねましたが、４回目の練習会を開催した６月30日に２年連続の中止が発表されました。

練習の成果を発揮する場を失ったことはもちろん、市民の皆様との交流の機会が失われたことは非常に残念ではありましたが、これまで受け継がれてきた技術の伝承のため、7月以降も新型コロナウイルス対策を万全に行ったうえで、盛岡青年会議所会員のみで練習会を継続致しました。

2022年こそは盛岡さんさ踊りが開催され、市民の皆様と共にパレードに参加できることを願っております。

# 次世代育成事業　次世代育成アンケート調査

**■事業目的**

新型コロナウイルスの感染拡大によって、学校や地域の行事などが中止や縮小になることで、子供たちは自分の可能性を見つける機会が減っています。次世代を担う子供たちの行動が、まちの成長に繋がると考え、私たち大人は子供たちの行動を支えるために生活環境にどのような変化があるか、現在の子供たちの興味があるもの、関心ある出来事を調査することで次世代育成事業の構築を行います。

**■日時・場所**

2021年２月１日(月) ～ 2021年２月15日(月)

**■事業報告**

未来の担い手である子供たちの興味や関心を知り、自身と他者との価値観を考える機会を提供することで子供たちの公平な思いやりと豊かな人間性を育み、その中で、子供たちの理想像を共に描き、柔軟な発想を地域へ拡げることで、地域の課題解決に繋げていけると考え、中高生を対象にアンケート調査を行いました。

結果、１８７３もの回答を得られ、次世代育成事業の構築に用いました。

# 第 33 回わんぱく相撲盛岡場所

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 子供たちの成長を感じ、理想に向かって挑戦する大切さを再認識すること。
- 青少年育成事業の意義を再認識すること。

**（対外目的）**

- 子供たちが、礼節を学び、他者を思いやる心を育むこと。
- 子供たちが、何事にも挑戦出来る心を育むこと。
- 大人たちが、青少年育成事業の重要性を認識すること。

**■日時・場所**

2021年６月21日

**■事業報告**

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種大会が中止、延期になり、子供たちの自己肯定感を高める機会が減っているなかで第33回わんぱく相撲盛岡場所を開催し子供たちに成長の機会を提供できたことは、挑戦する事の大切さを確認してもらうと同時に、我々大人たちにも感動を与えてくれました。

当日は晴天に恵まれ、岩手県内の４年生から６年生の男女計30名が出場し、わんぱく相撲を通じて、勝者を称え敗者を思いやる心を育み、目標を持ち、努力し、挑戦することで強い決意と行動力が培われました。

今年は10月に「第36回わんぱく相撲全国大会」が両国国技館にて開催され、11月に「第2回わんぱく相撲女子全国大会」が名古屋の地にて開催されることになり、４・５・６年生男女の横綱（優勝者）６名が全国大会への切符を手に入れました。

# 第 36 回わんぱく相撲全国大会

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 子供たちが目標に向かって挑戦する姿から、青少年育成事業の重要性を再認識すること。

**（対外目的）**

- 子供たちが目標に向かって挑戦すること。
- 子供たちに思いやりの心が育まれること。
- 大人たちが子供たちの成長を感じることで、青少年育成の重要性を再認識すること。

**■日時・場所**

2021年10月30日(土) ～ 31日(日)

**■事業報告**

本年度は両国国技館にて「第36回わんぱく相撲全国大会」が開催され、岩手県代表として盛岡場所で横綱となった４～６年生の３名が出場してきました。

全国大会に向けての目標を描き達成できるよう挑戦し練習の成果を全国大会の土俵で発揮してくれました。

全国大会の大きな舞台で子供たちが、自ら目標を描き挑戦し困難があろうと前に一歩踏み出す姿は、我々大人たちに大きな感動を与え、青少年育成事業の重要性を再認識する機会となりました。

〈大会結果〉

４年生　千葉優太君（好摩小学校）　２回戦敗退

５年生　斎藤煌生君（平舘小学校）

小結（４位入賞）ベスト８

６年生　小野寺汐音君（九戸村立長興寺小学校）

３回戦敗退ベスト１６

# 第２回わんぱく相撲女子全国大会

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 子供たちが目標に向かって挑戦する姿から、青少年育成事業の意義を再認識すること。

**（対外目的）**

- 子供たちが目標に向かって挑戦すること。
- 子供たちに思いやりの心が育まれること。
- 大人たちが子供たちの成長を感じることにより青少年育成の意義を再認識すること。

**■日時・場所**

パロマ瑞穂スポーツパーク相撲場

**■事業報告**

本年度は名古屋のパロマ瑞穂スポーツパーク相撲場にて、「第２回わんぱく相撲女子全国大会」が開催され、岩手県代表として、盛岡場所で横綱となった４～６年生の３名が出場してきました。

全国大会に向けての目標を描き達成できるよう挑戦し練習の成果を全国大会の土俵で発揮してくれました。

全国大会の大きな舞台で子供たちが、自ら目標を描き挑戦し困難があろうと前に一歩踏み出す姿は、我々大人たちに大きな感動を与え、青少年育成事業の重要性を再認識する機会となりました。

〈試合結果〉

４年生　佐藤実莉さん（鵜飼小学校）１回戦敗退

５年生　高橋徠愛さん（平舘小学校）２回戦敗退

６年生　村上絢菜さん（大更小学校）１回戦敗退

# 国際社会創造委員会　経済文化交流会議

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 姉妹JC交流の価値を知る機会とすること。
- コロナ禍においてお互いがどのような活動をしたのかを知り、相互理解を深めること。
- 対面ではなくても、国際交流ができることを知り、身近に捉える機会とすること。

**（対外目的）**

- 姉妹JC交流の価値を知る機会とすること。
- コロナ禍においてお互いがどのような活動をしたのかを知り、相互理解を深めること。
- 対面ではなくても、国際交流ができることを知り、身近に捉える機会とすること。

**■日時・場所**

2021年10月28日　盛岡青年会議所事務所（Zoom）

**■事業報告**

本年度は昨年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、10月に企画しておりました訪日事業が中止となりましたが、先輩方より受け継がれてきた交流の歴史を繋いでいくため、オンラインでの経済文化交流会議を開催致しました。昨年度のお互いの事業報告をし合い、また本年度におけるコロナ禍におけるお互いの地域の現状や活動を報告し合うことで、相互理解を深めました。会議後には、お互いの訪問事業経験者の訪問事業の感想インタビュー動画を配信し、姉妹JC交流事業未経験者に国際交流の楽しさや、姉妹JC交流の歴史や価値を知っていただきました。また、経験者同士が顔を合わせ、心温まる時間にもなり、改めて訪問事業の価値や楽しさを参加していただいたメンバーの皆様に認識していただく機会にもなりました。

# 仮会員オリエンテーション

## 第１回仮会員オリエンテーション

**■事業目的**

**〈対内目的〉**

- 仮会員がJCI盛岡の組織を知り、運動の意義を理解すること。
- 仮会員にとって、能動的に行動する契機とすること。
- 正会員が自己を振り返り、運動の意義を再確認する契機とすること。

**■日時・場所**

2021年３月26日（金）　WEB配信

**■事業報告**

３月26日（金）第１回仮会員オリエンテーションをWEB開催致しました。第1回仮会員オリエンテーションでは仮会員向けに「青年会議所の価値とは」と題してプレゼンテーションを実施しました。プレゼンテーションを通じて仮会員が青年会議所、そして盛岡青年会議所の組織を知り、運動の意義を理解することができ、正会員の皆様は改めて運動の意義を再確認することができたものと考えております。参加した仮会員並びに正会員にとりまして、能動的に行動する契機となった事業を構築することができたと感じております。

## 第２回仮会員オリエンテーション

**■事業目的**

**〈対内目的〉**

- 仮会員の今後の円滑なJC活動につなげること。
- 正会員と仮会員がお互いの仕事を知りビジネスにつなげる契機とすること。
- 正会員と仮会員の相互の交流により、個々の成長の機会とすること。

**■日時・場所**

2021年６月11日（金）　WEB配信

**■事業報告**

６月11日（金）第２回仮会員オリエンテーションをWEB開催致しました。第2回仮会員オリエンテーションでは、コロナ禍において人とのつながりが減少し、活動に支障が出ている中、青年会議所に所属することの価値を提供したいと考え「ビジネス循環セミナー」と題してプレゼンテーションを実施しました。メンバーは家庭も仕事もJC活動も真剣に取り組んでおり、仕事の相談や依頼をする仲間がおり、ビジネスの機会の提供を通して積極的なJC活動への参画を図ることができたと感じております。また、コロナ禍において人とのつながりが減少しており、様々な活動に支障が出ている中、盛岡青年会議所のコミュニティを活かして仮会員、正会員が新しい価値観を取り入れることで、組織全体の活性化にも寄与することができたと感じております。

## 第３回仮会員オリエンテーション

**■事業目的**

**〈対内目的〉**

- 仮会員がJCI盛岡の運動の意義を理解し、参加意識向上を図ること。
- 仮会員と新入会員が、事業設営を通じて今後のJC活動への学びの機会とすること。
- 仮会員と新入会員が、正会員との交流を通して、自己成長の機会とすること。

**■日時・場所**

2021年10月15日（金）

盛岡八幡宮崇敬殿及びYouTube配信

**■事業報告**

10月15日（金）第３回仮会員オリエンテーションを盛岡八幡宮崇敬殿にて開催致しました。新型コロナウイルス感染症の影響が長期化することにより、感染拡大防止策をめぐり考え方や行動に変化が生まれておりますが、他者とのつながりから自分自身と向き合い、異なる価値観を受け入れることで自身の成長、発展につながると考え、ZOOM配信を止め、対面での仮会員オリエンテーションを実施しました。人と接する機会が激減しており、深い人間関係の構築が難しい状況でしたが、対面で実施することに踏み切ったことで、新入会員同士の絆が深まり、卒業式の事業構築に向け大きな収穫があったものと感じております。また今回は、現地での事業開催にも慣れて欲しいという主旨から、原則現地での参加啓発しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響やどうしても都合が付かず現地参加出来ない方向けに、当日撮影した動画をYouTube配信しまして、全ての仮会員に参加いただくことができました。

2021年度［例会報告］

# 強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

## 1月例会　新年交賀会

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 2020年度に賜わったご支援、ご協力に対する謝意を、ご出席いただいた皆様に示すこと。
- 理事長所信への理解を深め、会員一人ひとりが2021年度の運動に対し意識を高めること。

**（対外目的）**

- 2021年度の方針や運動にご理解を頂くとともに、益々のご支援、ご協力を賜ること。

**■日時・場所**

2021年１月９日（土）
盛岡グランドホテルよりオンライン配信

**■事業報告**

例年、多くのご来賓・各地青年会議所会員・特別会員の皆様にご参加いただき開催している新年交賀会ですが、12月中旬から新型コロナウイルス感染者数が増加したことを受け、今年度はオンライン配信により開催致しました。

式典では、2021年度理事長である第69代理事長田屋舘真留久君より所信表明が行われ、「強く、優しく　～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」をスローガンに掲げ、新体制のもと活動をスタートしました。

明るく豊かな社会の実現に向け、もりおかに住み暮らす住み暮らすすべてのひとと共に運動を展開する決意を新たに、その一歩を力強く踏み出しました。

## 2月例会　（一社）盛岡青年会議所２月例会異業種交流
### ～SDGsで考えるこれからのまちづくり～

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 会員拡大の契機とすること。
- SDGs推進に取り組む契機とすること。
- 多様な価値観に触れ自己成長につなげる機会とすること。

**（対外目的）**

- SDGs推進に取り組む契機とすること。
- 参加して頂いた方々の人脈づくりに寄与すること。
- 入会候補者やステークホルダーにJCI盛岡の活動に興味を持っていただき入会していただくこと。

**■日時・場所**

2021年２月26日（金）
アートホテル盛岡

**■事業報告**

２月26日（金）2月例会異業種交流会をZOOMを活用しまして完全オンラインにて開催致しました。昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響により交流の場が減っており、人との関わりが大きく変容しましたが、そんな中でも盛岡青年会議所は社会課題の解決と経済活動の両立を率先して目指していく団体であると考えております。そこで、「SDGsで考えるこれからのまちづくり」と題して、SDGs未来都市に選定されている岩手町町長の佐々木光司町長をお招きしてセミナーを実施し、最先端技術を活用した都市づくりを掲げ、政府の「スーパーシティ構想」で国家戦略特区として区域指定を目指している矢巾町未来戦略室の室長である吉岡律司様をお招きしてパネルディスカッションを実施しました。対内対外共に多様な価値観を享受するに相応しい事業を実施することができました。

## 3月例会　組織のための情報リテラシー講座

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 情報リテラシーへの理解を深め、事象を多角的に捉える力を養う。
- 組織のブランディング向上と情報発信の重要性を学び、各委員会が1年通して発信力の高い情報を展開する契機とする。

**■日時・場所**

2021年３月17日(水)　Zoom配信

**■事業報告**

JCI盛岡会員一人ひとりが組織のブランディングへの意識を高め、今後展開する運動の更なる向上や発信力を強化すべく、３月例会「組織の為の情報リテラシー講座」を設営いたしました。

昨今では、企業や団体がSNSを活用するのは一般的になっています。

ただし、誤った情報の使い方をしてしまうと、企業や団体の不利益になってしまう可能性もあります。

個々の情報リテラシーを養うことの重要性をお伝えできていれば幸いです。

## 4月例会　SDGsの達成に向けた羅東國際青年商會との取り組み

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 価値観や地域特性の違いと共通点を相互理解すること。
- 姉妹JC交流の歴史や価値を理解し、パートナーシップを構築する契機とすること。
- 国際交流への関心を深めること。

**（対外目的）**

- 価値観や地域特性の違いと共通点を相互理解すること。
- パートナーシップを構築する契機とすること。
- 国際交流への関心を深めること。

**■日時・場所**

2021年４月17日（土）　JCルーム（Zoom）

**■事業報告**

長きに亘る友情を育んできた羅東國際青年商會と、お互いの価値観や地域特性の違いや共通点を理解し合い、パートナーシップを構築する契機とする事業として設営いたしました。

羅東國際青年商會と初めてのオンライン交流でしたが、共益事業ということで共に地域の文化や特性、そして地域課題をプレゼンテーションし合いました。毎月羅東國際青年商會と通訳を交えて打合せを行うことで意識共有をしながら事業を構築しましたが、参加していただいた方々には、地域課題において盛岡と羅東が似ているといった部分や、お互いのまちの魅力を知っていただいたことで、相互理解を深めていただき、多くの方に国際交流に興味を感じていただくことができました。

## 5月例会　次世代育成事業「自分の未来を描いてみよう」

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 自己肯定感を高めることの重要性を認識し、自己肯定感の高め方を理解する。
- まちの発展を考え、主体的に課題解決に向け行動する。

**■日時・場所**

2021年５月28日（金）　Zoom

**■事業報告**

すべての子供たちがお互いを尊重し認め合う中で、自己肯定感を高め未来のあるべき姿を描き挑戦できる社会の実現を目指すためには、我々大人たちが子供たちと真摯に向き合わなければならないと考え次世代育成事業「自分の未来を描いてみよう」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大により、子供たちと共に事業を構築することは叶いませんでしたが、次世代育成アンケートの子供たちの理想のまちに対する意見から理想と現実のギャップを埋めることにより、子供たちの発想から新たな気付きを得る機会となりました。

自己肯定感を高める重要性を認識することは、子供たちのより良い成長に繋がるだけではなく、職場や地域においても活用でき、次世代を担う子供たちの成長がまちの発展に繋がっていくことを確信しました。

## 7月例会　国際社会創造事業

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 外国人も同じ地域住民であるということを知ること。
- 外国人と意識共有を図り、地域レベルからパートナーシップを構築する契機とすること。
- 国際交流に関心を持つこと。

**（対外目的）**

- SDGsの達成に向けて行動する機会とすること。
- 盛岡青年会議所メンバーと意識共有を図り、パートナーシップを構築する契機とすること。
- もりおかの一員であることを認識すること。

**■日時・場所**

2021年７月19日（月）　JCルーム（Zoom）

**■事業報告**

すべてのひとが年齢、性別、国籍、宗教に関わらず同じ地域住民として共通認識を持ち、SDGsの達成に向かって共に行動する契機とする事業として設営いたしました。

会場で集合して開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、Zoomでのオンライン設営となりました。

参加していただいた方々には、共通のテーマに対し言葉を交わし、そして体を動かしたことで仲間意識を持っていただいたと考えます。また、マイボトルの使用といった今すぐできる、一人でもできる環境対策を、インパクトを創出しながら展開したことで、記憶に残り、後日思い出していただくことで、問題解決へ確実に繋がると確信しております。

## 8月例会　地域の魅力創造事業

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 活気と一体感があるもりおかの未来の実現に向け、当事者意識を持つこと。

**■日時・場所**

2021年８月30日（月）　オンライン配信

**■事業報告**

盛岡青年会議所がその立ち上げから現在に至るまで主催団体の一つとして関わり続けている盛岡さんさ踊りについて、これまでの様々な取り組みやそこに込められた熱い想いを共有する例会を開催致しました。

盛岡さんさ踊りが誕生するまでの経緯、パレード参加団体で唯一、市民の皆様にもご参加いただける一般枠を設けている理由、子どもたちとの繋がり、2003年にSAAS（サーズ：重症急性呼吸器症候群）が流行した際の踏ん張り、東日本大震災で被災された方々や国籍、年齢、性別の違いや障害の有無に関わらず、様々な方々との盛岡さんさ踊りを通じた交流などを、当時の写真や頂いたお手紙などを交えながら学びました。

盛岡青年会議所の歴史を紡いできた先輩たちの熱い想いをしっかりと受け継ぎました。

## 9月例会　出向者連絡会議

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 新たな学びや気づきを得ること。
- 今後展開する運動の更なる向上や力強い発信に繋げる契機とすること。
- 出向する意欲を高めること。

**■日時・場所**

2021年９月29日(水)

オンライン開催

**■事業報告**

2021年度は、総勢32名のメンバーに国際青年会議所、公益社団法人日本青年会議所、公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会、公益社団日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会へと出向いただきました。それぞれの出向先で得た貴重な経験や学びをメンバーに共有いただき、これまで出向したことのない会員や新入会員の興味や意欲に繋がる機会となりました。また、2022年度の役員紹介もあり、更なる力強い運動を展開する契機にもなりました。

設営に関しては、本年度策定した「新型コロナウイルス状況下における例会・事業 開催判断基準」に基づき、オンライン開催となりましたが、事前準備の段階からシミュレーションを積み重ね、役割分担を明確にしたことで、別拠点からでも滞りなく設営することができました。

## 10月例会　OB 先輩と現役メンバーとの交流会

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 特別会員との交流を深めること。
- 盛岡青年会議所の歴史を再認識し、今後の運動及び活動に繋げること。

**（対外目的）**

- 盛岡青年会議所の運動及び活動に対し、理解を深めていただくこと。

**■日時・場所**

2021年10月22日（金）
盛岡グランドホテル

**■事業報告**

69年の歴史と伝統を築いてこられた先輩方との交流を通じて、盛岡青年会議所の運動を更に発展させていくべく、「OB先輩と現役メンバーの交流会」を開催しました。

本年は、新型コロナウイルス感染防止対策として、マスク着用やアルコール消毒は当然ながら、飲食の時間は設けず、また例年と比べ短い時間での設えと致しました。時間が限られていることもあり、新入会員自らが先輩方との接点を持とうとする姿も見受けられ、密度の濃い交流をすることができました。

日々私たち現役会員が活動できているのは、先輩方に支えられているからだと再認識するとともに、これからも誇りを持って社会のために行動し続けようと気持ちを新たにする機会となりました。

## 11月例会　2021 年度活動報告例会

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会の実現に向けて、我々の運動及び活動が社会に対し、どのように展開できたのかを会員全体で共有すること。

**■日時・場所**

2021年11月22日(月)
盛岡グランドホテルおよびWEB

**■事業報告**

2021年度のスローガン「強く、優しく　～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」のもと、本年度の活動や運動が社会に対して、どのように前向きな変化を生み出したのかを会員全体で共有すべく、11月活動報告例会を開催しました。

第1部活動報告スピーチでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、1年間歩みを止めずに、どのような思いを持って委員会運営や事業構築をしてきたのか、メンバーやまちに対してどのような発展・成長の機会を提供できたのかを発表いただきました。

第２部活動報告パフォーマンスでは、委員会メンバーの協力のもと、ユーモア溢れる動画を事前に制作いただき、当日お披露目いたしました。

会場参加とオンライン参加のハイブリッド開催となりましたが、会員全体で1年間の挑戦した軌跡を振り返り、次年度へ弾みとなる時間となりました。

# 12月例会　卒業式

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 卒業生が今後の更なる発展、成長を決意し、未来へ歩みを進める契機とすること。
- 現役会員が卒業生から想いと情熱を受け継ぎ、自身の発展、成長の意欲を向上させること。
- 新入会員同士の絆を深め、今後のJC活動につなげる経験を得ること。

**■日時・場所**

2021年12月４日（土）

**■事業報告**

去る12月４日（土）、12月例会卒業式を開催しまして22名の仲間がご卒業されました。今年度の卒業式のテーマは「挑戦～共に明日を切り拓く～」と掲げました。どのような状況下でも今まで以上に卒業生と現役会員には持続可能な社会を築いていくという共通の認識を持ち、歩みを止めずに活動を続けていくことが必要です。そして、JAYCEEとして過ごしてきた自信と誇りを胸に、他者を思いやる優しい心を持ち、地域を牽引するリーダーとして新たな時代を切り拓いていただきたいと考え、参加した全ての方が未来に歩みを進める機会と致しました。

## コロナ中止について

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、各事業を実施するのか、実施する場合は対面で実施するか否かの判断を迫られました。

年間事業計画にて「第33回わんぱく相撲盛岡場所」を6月例会として計画しておりましたが、盛岡広域圏における新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、少しでも密集を避ける為、6月例会としての開催を断念しました。

新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じた上で、選手、保護者、引率者、相撲連盟、青年会議所メンバーの中から関わる人数を最小限に絞り、時間を短縮して「第33回わんぱく相撲盛岡場所」を開催しました。

６月例会に対するアテンダンスは全会員対して付与しました。

2021年度［各種大会報告］

# 強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

# 京都会議

**■事業目的**

**（対内目的）**

- 公益社団法人日本青年会議所2021年度会頭予定者野並晃君の所信演説を拝聴し、青年会議所活動への意欲を高めること。
- 公益社団法人日本青年会議所に出向する盛岡青年会議所正会員がどのような活動を行っているか知ること。

**■日時・場所**

2021年１月22日（金）～１月24日（日）

WEB配信（YouTube）

**■事業報告**

本年度の京都会議は初の完全WEB開催となりました。WEB開催となったことにより、これまで京都会議に参加したことが無い方にも京都会議に参加してもらおうと考え、情報発信してまいりました。

公益社団法人日本青年会議所第70代会頭　野並晃君の所信を拝聴し、１年間の活動の決意を固めることが出来ました。

また、日本青年会議所に出向しているメンバーが担当しているフォーラムを紹介することにより、出向者を応援し、出向者の得た経験を気づきとしてすべての会員にフィードバックし盛岡青年会議所の運動の価値を高めました。

# ブロック大会

**■日時・場所**

2021年６月26日（土）

陸前高田文化会館　奇跡の一本松ホール

**■事業報告**

去る６月26日（土）、第50回岩手ブロック会員大会in陸前高田が開催され、JCI盛岡からは26名が現地参加してまいりました。

昨今は新型コロナウイルスの影響もありメンバーの繋がりの輪が減少しており現状のままでは今以上の地域発展を成しえないことから、メンバーの心の豊かさに加えて質的価値を大切にする精神性が強く求められます。今までは「当たり前」だったものがニューノーマルに変化するなかで、この変化を見極め捉えることで新たな価値を見出すことを目指し、今大会では【ニューノーマルを創出する起点となれ－感謝と希望を込めて－】を大会コンセプトに開催されました。天候にも恵まれ陸前高田の地を大いに満喫し、地域の明るい未来を感じる大会となりました。

# サマーコンファレンス

**■日時・場所**
2021年７月17日(土)
パシフィコ横浜、オンライン配信
**■事業報告**
「彩（いろどり）の結節点」を開催テーマに掲げ、会場からのオンライン配信によるハイブリット開催となりました。
現地参加者は設営担当の出向理事のみではありましたが、昨今、様々な場面での「量から質への転換」を受け注目されている「質的価値」に関するフォーラムを始めとした多くのセミナーは非常に学びの多いものでした。

# 国際社会創造委員会　JCI ASPAC 台中大会

**■事業目的**
**（対内目的）**なし
**（対外目的）**なし
**■日時・場所**
2021年８月19日(木) ～ 22日(日)
台湾　台中（Zoom）
**■事業報告**
８月19日(木)～ ８月22日(日)までの４日間において開催されました。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、物理会議及び登録の中止が発表され、オンライン開催へと変更されました。初のオンラインでの開催でしたが、日本語しか話すことができない方も国際交流できる機会もあり、より国際交流を身近に捉えることができる機会として情報提供させていただきました。オンラインでの開催は、現地訪問ができないメンバーにとって、普段目にすることができないものを視聴することができる貴重な機会でした。

JCI 2021 JCI Asia-Pacific Conference TAICHUNG, TAIWAN

# 東北青年フォーラム in 郡山

**■日時・場所**

2021年９月４日(土) ～９月５日(日)

Zoom及びYouTubeLive

**■事業報告**

本年度の東北青年フォーラムは「未来を切り拓け！～開拓者精神で共に奏でよう！東北六重奏～」というスローガンを掲げ、東北６県の仲間と手を携え、共鳴を起こし、新たな価値を共創したいとの想いから「東北六重奏」と表現しております。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、完全WEB開催となり、例年のような現地で一体感を感じながらの参加とはなりませんでしたが、WEB開催という参加しやすい環境もあり、登録者50名という多くのメンバーが東北地区の活動を知る契機とする大会にする事ができました。

未来を切り拓け！

～開拓者精神で共に奏でよう！東北六重奏～

2021 東北青年フォーラムin郡山

# 第 70 回全国大会　とちぎ宇都宮大会

**■日時・場所**

2021年10月07日(木) ～ 10月10日(日)

ハイブリッド開催

**■事業報告**

70周年記念式典では、栃木県知事・宇都宮市長や歴代会頭など、多くのご来賓の皆様をお招きし、記念事業を行いました。

卒業式では、映像によって卒業生の活動を振り返り、贈る言葉や、一青窈さんによる心にしみる歌を頂きました。

卒業生に対し、これまでの感謝を表し、生涯JAYCEEとして、それぞれの地域のために活動し続けていただくようエールを届けました。

現地に行けなかったメンバー用にサテライト会場を設置し、各自、思い出話に花を咲かせ、様々な思いを胸に卒業式に参加しました。

# 世界会議

**■日時・場所**

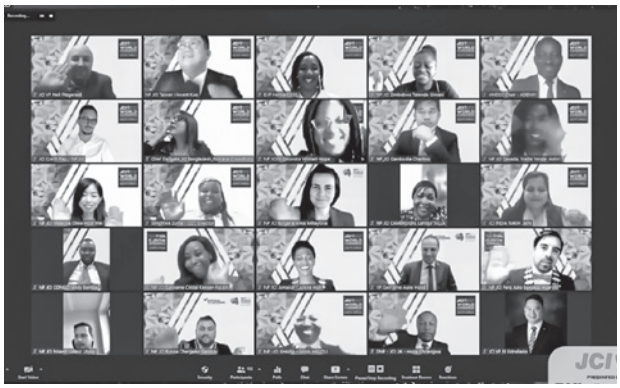
2021年11月16日(火) ～ 2021年11月20日(土)
オンライン開催

**■事業報告**

JCI世界会議は、世界中のリーダーや起業家、ステークホルダーである青年経済人の3000人以上の代表者を結集する年次イベントです。代表団は、インスピレーションを与えるセッション、インパクトのあるワークショップ、公式JCIビジネスに参加し、最終的に地域社会や世界全体にポジティブな変化を生み出す若いリーダーを育成することを目的としています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、物理会議が中止となり、オンラインでの開催となりました。

大会テーマを「Ignite Compassion,Unite Humanity.」とし、思いやりの心を拡げ、誰一人取り残さない世界を実現するために団結して行動する機会となりました。
オンライン開催により普段目にすることのできない世界的な事業を目にすることができ、参加したメンバーにとっては開催地に行かなくとも貴重な学びを得られる機会であったと感じております。



2021年度［各委員会及び出向者報告］

# 強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

## 地域開発委員会

委員長　佐々木裕一

地域開発委員会では、田屋舘理事長の掲げる「強く、優しく ～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」のスローガンのもと、誰もが住み続けたいと思える活気溢れる盛岡の実現に向け、1年間運動を展開してまいりました。

1月例会「新年交賀会」では田屋舘理事長の所信表明をオンライン配信し、明るく豊かな社会の実現に向け、もりおかに住み暮らすすべてのひとと共に運動を展開する決意を新たに、その一歩を力強く踏み出すことができました。

2月からは2年ぶりの盛岡さんさ踊りの開催を信じ、準備を開始いたしました。盛岡さんさ踊りパレードに参加したことが無い会員も増える中、これまで受け継がれてきた技術の伝承のため、盛岡さんさ踊り練習会を計9回開催いたしました。4回目の練習会当日の6月30日に盛岡さんさ踊りの2年連続中止が発表されたことを受け、7月の計5回の練習会は盛岡青年会議所会員のみで行うこととなりましたが、回を重ねる毎に熱気と一体感が増し、汗だくになりながらも清々しい笑顔が溢れたことがとても印象的でした。

8月例会「地域の魅力創造事業」は、盛岡青年会議所はなぜ盛岡さんさ踊りの「主催団体の一つ」となっているのか、しっかり理解するとともに、これまで先輩方が行ってきた様々な取り組みに込められた「もりおかの未来をより良くしたい」という想いをしっかり受け継ぎ、理想のもりおかの実現に向け一人一人が当事者意識を持つことを目的として設営致しました。1971年度から約50年分の事業報告書、アニュアルレポート、委員会アルバムに詰まった先輩方の熱い想いをメンバーで共有し、改めてこれまでの取り組みに誇りを持ち、今後の運動を推進する契機となったと確信しております。

10月の「まちの未来創造事業」では、学生の皆様や市民の皆様とともに、新型コロナウイルス感染症がもりおかの社会状況・経済状況にどのような影響を与えたのかを統計資料や各市町の担当者より聞き取りした内容をもとに把握し、各市町が抱える課題の解決策について、意見・アイディアを出し合いました。グループワークでは予定していた時間を延長するほどの白熱した議論が展開され、多角的なご意見や新たな発想によるアイディアをたくさん頂戴することができました。
そして、事業の結果をまとめ、各市町に提言することで、当委員会の1年の活動の締め括りとなりました。

最後に、当委員会の事業にご参加、ご協力いただいた皆様、私を最後まで支えていただいた委員会スタッフと委員会メンバーの皆様、そして貴重な機会を与えていただいた田屋舘理事長に心より感謝申し上げます。1年間、本当にありがとうございました。

## 次世代育成委員会

委員長　沼田　　悟

次世代育成委員会では、「未来のあるべき姿を描き、すべての子供たちが挑戦できる社会を創造する」という基本方針のもと、一年間活動をしてまいりました。

２月に中学生高校生を対象にした「次世代育成アンケート」を行い、子供たちの興味関心を知るとともに理想のまちを子供目線から考えるアンケート調査を実施しました。その結果をもとに５月例会では、すべての子供たちがお互いを尊重し認め合う中で、自己肯定感を高め未来のあるべき姿を描き挑戦できる社会の実現を目指すためには、我々大人たちが子供たちに真摯に向き合い寄り添わなければいけないと考え例会を設営しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、子供たちと共に事業を構築することは叶いませんでしたが、次世代育成アンケートの子供たちの理想のまちに対する意見から理想と現在のギャップを埋めることにより、子供たちの発想から新たな気付きを得る機会となりました。

自己肯定感を高める重要性を認識することは、子供たちのより良い成長に繋がるだけではなく、職場や地域においても活用でき、次世代を担う子供たちの成長がまちの発展に繋がって行くことを確信しました。

６月に行われた「わんぱく相撲盛岡場所」では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各種大会が中止、延期になり、子供たちの自己肯定を高める機会が減っているなかで第33回わんぱく相撲盛岡場所を開催し子供たちに成長の機会を提供できたことは、挑戦する事の大切さを確認してもらうと同時に、我々大人たちにも感動を与えてくれました。

本大会がこれからも多くの子供たちの目標になり、困難があってもより良い方向へと挑戦していくことのできる大会であることを再確認致しました。

子供たちが自ら理想を描き自己肯定感を高め何事にも挑戦できる前向きな心の育成に寄与する事業を行ってまいりましたが、私たち大人も子供たちの理想を知り、子供たちの成長する姿を目の当たりにして、感動を覚え成長の機会を頂いた一年となりました。

## 国際社会創造委員会

委員長　瀬川　瞬

2021年度の国際社会創造委員会は、国際交流事業に関わったことのあるメンバーが少ない中でのスタートでした。まず私たち自身が国際交流の価値や楽しさを理解し、それを展開することが私たちのやるべきことだと思い、歩き始めました。

活動していく中で難点であったのが、交流は継続してこそ意味があるということでした。最初の羅東國際青年商會との４月例会への準備へ向けて、Zoomを使用して何度も羅東國際青年商會の皆さんとの打合せやリハーサルを重ねていく上で、私たち自身は交流できていても、メンバーの皆さんに交流していただきたいと思う中で一度の事業において信頼関係を築くことは難しいと感じておりました。

その中で私たちが考えたのが、オンライン事業の中で通訳を挟み言葉を交わすということでした。SDGsの達成に向けて価値観の違いや共通点を認識していく中で、同じテーマに向けて言葉を交わす。交わすことによって信頼関係が生まれ、交流の価値を伝えることができると思い、事業を構築してまいりました。

７月例会においては、４月例会より更に高いビジョンを持ち、一度の事業の中で言葉を交わす以外にインパクトを与えながら信頼関係や価値を伝えるということに拘りました。同じ行動をすることで、仲間意識を持っていただきながら共通の課題解決に向けて行動する。これは今までの盛岡青年会議所の事業の中でも類を見ない事業であったと自負しております。

国際交流は言葉の壁、そして文化の違いなど、先入観により壁を作ってしまいがちですが、本年度の私たちの事業により、言葉や文化が違っていても、同じ思いを共有することができたり、見たこと、感じたことのない世界を感じることができるということを、メンバーや参加者の皆さんにインパクトを与えながら展開することで、SDGsの目標達成に向けて行動し、関わった全ての人達とパートナーシップを構築することができたと確信しております。

最後になりますが、貴重な機会与えて下さった田屋舘理事長を始め、委員会スタッフ、委員会メンバーには本当に感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

## 会員拡大委員会

委員長　小倉　征也

今年度、一般社団法人盛岡青年会議所ではスローガン「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」のもと、運動を展開して参りました。理事長所信の中で会員拡大委員会に与えられたテーマは【青年会議所の価値を再認識し、アクティブシチズンを増やす】でありました。

当委員会では、青年会議所の価値を再認識すること、そして新入会員40名の会員拡大を目指し1年間活動して参りました。

２月に開催した異業種交流会では、完全オンラインでのZOOMを活用した異業種交流会を開催しました。「SDGsで考えるこれからのまちづくり」と題して、外部講師を招いてセミナーとパネルディスカッションを実施しまして対内対外共に多様な価値観を享受するに相応しい事業を実施することができました。

全３回の仮会員オリエンテーションでは、プレゼンテーションを通じて仮会員が青年会議所、そして盛岡青年会議所の組織を知り、運動の意義を理解することができ、正会員の皆様は改めて運動の意義を再確認することができたものと考えております。６月に開催した第２回仮会員オリエンテーションでは、コロナ禍において人とのつながりが減少していることから、青年会議所に所属することの価値を提供したいと考え「ビジネス循環セミナー」と題してプレゼンテーションを実施しました。ビジネスの機会の提供を通して積極的なJC活動への参画を図ることができたと感じております。そして、全ての参加者が新しい価値観を取り入れることで、組織全体の活性化にも寄与することができたと感じております。10月に開催した第3回仮会員オリエンテーションではZOOM配信を止め、対面での仮会員オリエンテーションを実施しました。人と接する機会が激減しており、深い人間関係の構築が難しい状況でしたが、対面で実施することに踏み切ったことで、新入会員同士の絆が深まり、今後のJC活動に大きな収穫があったものと感じております。

最後に、私に挑戦の機会を与えてくれた田屋舘理事長、当委員会を支えていただき導いてくれた豊岡副理事長、山口室長、陰ながらいつも応援してくれた米内副委員長、杉澤幹事、村上幹事、全面的に協力してくれた委員会メンバーの皆様、そして能動的に行動を起こした23名の新入会員の皆様、一年間本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

## JC ブランディング委員会　委員長　道下　剛史

JCブランディング委員会では、JCI盛岡が展開する事業の価値を高め、より多くのひとを巻き込む運動を盛岡に拡げるべく、一年間活動をしてまいりました。

JCI盛岡の運動に地域の住民を巻き込むためには、まず、どんな組織であるかを知ってもらうことが大切であると考え、アニュアルレポート･広報誌を作成しました。アニュアルレポート・広報誌は地域の住民からの認知度向上だけでなく、JCI盛岡会員が昨年度の事業を振り返ることで、JCI盛岡の運動を会員一人ひとりが再確認する事ができました。

３月例会「組織のための情報リテラシー講座」では、情報を発信する上で必要不可欠な情報リテラシーの向上をテーマにした例会を行いました。プレゼンテーションを行う上で、情報を発信するプロ、岩手日報と情報を読み解くプロ、岩手県警へ取材を行い、取材で得た情報を基に設営させていただきました。

昨今では組織のブランディングを行う上で欠かすことのできないSNSですが、当委員会では自然の風景や食べ物といった地域の魅力とJCI盛岡の魅力を結び付け毎週発信してまいりました。

この記事を作成する上で、委員会メンバーの情報リテラシー向上が役立ったのは言うまでもありません。

８月にJCI盛岡公式ホームページにて公開した広報誌通常号では、ふじポン・大学生と田屋舘理事長がジェンダー平等をテーマにした対談を行いました。

ローカルタレントとして第一線で活躍しているふじポンの経験談や若い世代からの率直な意見がとても印象的でした。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、仕事においてもSNSやWEBサイトの重要性は年々増しているなか、ブランディング構築・発信力強化が組織にとって如何に大切な時代であるかを感じた一年間でした。

最後に、JCブランディング委員会のメンバーには心からお礼を言いたいです。

全ての事業にメンバー全員で取り組み、無茶な要求にも答え、最後に笑って酒を酌み交わし、酒癖の悪いメンバーも見捨てない、最高の委員会でした。

本当に素晴らしい一年間をありがとうございました。

## 未来構想特別委員会　委員長　吉田　将太

未来構想特別委員会では会員数の減少が続いているなか、誰もが挑戦できる組織を次世代に引き継ぐべく組織改革に取り組んでまいりました。

会員拡大短中期ビジョン･戦略の運用、検証において、盛岡青年会議所の魅力を入会候補者へ効果的にお伝えするため、現役会員がその魅力を再確認するための資料の作成を行いました。作成していく過程で、自身でも気が付かなかった様々な機会と魅力を再確認することが出来ました。また、JC活動の大変さを伝える事は容易なのに対し、学びや楽しさを積極的に伝える事の難しさを感じました。今後の会員拡大につながることを期待いたします。

ポストコロナにおける組織運営マニュアルの策定については、現役会員にアンケートとヒアリングを行い、コロナ下においてどのような制約を受けているか確認することから行いました。Zoom委員会や例会のオンライン中継など、集合することができない中で運動を展開していくことに対し、納得している部分と不満に感じている部分があり、運営する側も試行錯誤状態であることが感じられました。青年会議所は「自分たちの事を自分たちで決める」組織であることを再認識し、時代や状況に合わせた柔軟な組織運営が行えるよう、基本となるマニュアルを整備することができました。

ビジネスマッチングサイトの運用については、事業の継続を断念することとなりました。事業立ち上げ時に想定していた運用が出来ず、他の類似サイトとの差別化も不十分であり、新規登録をはじめとした利活用が低調なまま推移していました。JCにおいてビジネスマッチしていくことの重要性は今後も変わらないことから、当事業でうまくいかなかった部分をしっかりと検証し、今後の事業構築の一助としていただきたいと思います。

年間を通し、新型コロナウイルスの影響を常に意識しながらの活動となりましたが、Zoomやスプレッドシート等オンラインツールを活用し、集合しない、出来ない中でのコンセンサス形成の形を試行することで、委員会組織の柔軟性を示すことが出来たのではないかと感じます。今後、我々を取り巻く環境がどのように変化するか予測することはできませんが、どのような状況下でも活動を続けていただき、盛岡青年会議所が地域に良い影響を与え続けていくことを期待しております。

# 盛岡JC野球部（盛岡ジャニーズ倶楽部）

今年度は８月７日陸前高田市高田松原運動公園高田松原第二球場にて公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会主催野球大会が開催されました。

近年、主力であったメンバーが卒業し、チームの再編成が必要でありましたが、新入会員をはじめ多くの新入部員を迎え、試合に臨むことができました。当日は応援も含め、18名のメンバーで試合に臨みました。

事前に広宮沢公園野球場の全体練習、都南バッティングセンターでの個人練習をし、臨んだトーナメント初戦はJCI陸前高田との試合。新入部員の福田和晃君の熱闘、宮野キャプテンを中心とした打線も奮起しましたが、惜しくも６－10で初戦敗退の結果でした。

出場メンバー、ベンチメンバー共に一丸となり最後まであきらめることなく白球を追いかけ、18名の参加者全員が試合に出場することができ、大きな怪我もなく大会を終えることができました。

来年度も新キャプテン田屋舘真留久君のもと、多くのメンバーを巻き込み盛り上がっていただければ幸いです。関わってていただいたすべての皆様に感謝を申し上げ活動報告と致します。

# 盛岡青年会議所サッカー部

本年は、昨年に続き新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、全国大会が中止となりました。本来であれば大阪の吹田にて開催される予定ではありましたが、残念ながら２年連続の中止となり、サッカー部自体の活動もなくまた１年が過ぎてしまいました。

昨年、今年の入会者はサッカー経験者も多く、これまではOBが中心のチームではありましたが現役中心のチームに変わりつつあります。今のメンバーであれば過去最高の成績を出せる自信があるだけに、やるせない気持ちもありますが、優勝するための準備期間だとプラスに考えて、各々でトレーニングに励んで参ります。まずは、年末の忘年会でチームの親睦をしっかり深めて、来年大会が、開催される事を切に願いたいと思います。

# 2021年度　卒業生名簿

・土樋　梓・宮野　祐樹・菅原　一法・松本　陽吉・鳥居　誠
・塚原　孝一・高橋久美子・吉田　将太・豊岡　美夏・工藤　静香
・谷藤　一徳・沼袋　祐也・藤澤　知明・今野　洋介・瀬川　瞬
・成瀬　敦理・針生　真和・佐々木宏之・石田　寛・熊谷　松亮
・道下　剛史・吉津　英文

# 2021年度　新入会員名簿

| 氏　名 | 勤　務　先 | スポンサー① | スポンサー② |
|---|---|---|---|
| 照　井　淳　史 | 盛岡グランドホテル | 山　口　雄　司 | 小　倉　征　也 |
| 小野寺　数　馬 | ブルーアドバイザーズ㈱ | 山　口　雄　司 | 小　倉　征　也 |
| 福　田　一　臣 | ㈱いわてアスリートクラブ | 三　浦　　崇 | 小　倉　征　也 |
| 瀬　川　天　子 | ㈱クレセント | 沼　袋　祐　也 | 今　野　洋　介 |
| 下河原　　伸 | ㈱FPホームサービス | 髙　橋　　潤(14) | 谷　藤　一　徳 |
| 菊　地　美　紀 | 盛岡ガス㈱ | 山　口　雄　司 | 小　倉　征　也 |
| 晴　山　敬　俊 | 東皋石材㈲ | 宮　野　祐　樹 | 小　倉　征　也 |
| 佐　藤　志　学 | ㈱シリウス | 山　口　雄　司 | 今　野　洋　介 |
| 及　川　和　明 | ㈱T・S | 豊　岡　　淳 | 小　倉　征　也 |
| 宮　野　洵　弥 | ㈱東北工商 | 宮　野　祐　樹 | 山　内　圭　介 |
| 木津川　隼　己 | プルデンシャル生命保険㈱ | 村　上　千　尋 | 松　本　恭　史 |
| 千　葉　潤　也 | ㈲二葉建設・カジュアルダイニングHOME | 池　野　利　彦 | 小　倉　征　也 |
| 藤　原　勇　介 | 東北物産㈱ | 大和田　祐　輔 | 髙　橋　　潤(14) |
| 鳥　居　さゆみ | 岩手トヨタ自動車㈱ | 藤　澤　　平 | 小　倉　征　也 |
| 中　村　沙　綾 | ㈱ゴールドラッシュエンターテインメント | 田屋舘　真留久 | 小　倉　征　也 |
| 鈴　木　　亮 | 佐藤朋紀法律事務所 | 池野　利　彦 | 山　口　雄　司 |
| 菅　　洋　介 | ロッシュマーノ | 豊　岡　　淳 | 髙　橋　　潤(16) |

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2021年度　出向者名簿

■国際青年会議所（１名）

| | | |
|---|---|---|
| アジア太平洋開発協議会（JCI APDC） | 開発担当役員 | 伊藤淳之介 |

■公益社団法人日本青年会議所（７名）

| | | |
|---|---|---|
| 地域グループ質的価値創造会議 | 副 議 長 | 髙橋　潤⑭ |
| | 小 幹 事 | 藤原　良行 |
| | 委　　員 | 石井　優宇 |
| | 委　　員 | 豊岡　　淳 |
| | 委　　員 | 松浦　直人 |
| アジアアライアンス構築委員会 | 兼任委員 | 伊藤淳之介 |
| 総務グループ 総務委員会 | 委　　員 | 鈴木俊太郎 |

■公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会（１名）

| | | |
|---|---|---|
| 会務担当（情報共有担当） | 副 会 長 | 宮野　祐樹 |

■公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会（24 名）

| | | |
|---|---|---|
| | 副会長 | 松本　陽吉 |
| 総務広報委員会 | 委 員 長 | 米谷　　猛 |
| | 幹　　事 | 沼袋　祐也 |
| | 委　　員 | 長瀬　智也 |
| | 委　　員 | 針生　真和 |
| | 委　　員 | 宮　　慧 |
| いわて JAYCEE アカデミー委員会 | 塾　　長 | 今野　洋介 |
| | 幹　　事 | 谷藤　一徳 |
| | 委　　員 | 石田　　寛 |
| | 委　　員 | 岩角慎太郎 |
| | 委　　員 | 牛渡　一王 |
| | 委　　員 | 小野寺　竜 |
| | 委　　員 | 熊谷　松亮 |
| | 委　　員 | 後藤　翔也 |
| | 委　　員 | 後藤　勇太 |
| | 委　　員 | 佐々木宏之 |
| | 委　　員 | 里　　裕一 |
| | 委　　員 | 髙橋　　凌 |
| | 委　　員 | 中嶋　政裕 |
| | 委　　員 | 福田　和晃 |
| | 委　　員 | 細川　翔太 |
| | 委　　員 | 道下　剛史 |
| | 委　　員 | 吉津　英文 |
| | 委　　員 | 若松　慈由 |

# 2021年度　出向者報告

国際青年会議所アジア太平洋開発協議会
（JCI　APDC）2020-2021
公益社団法人日本青年会議所　国際グループ
アジアアライアンス構築委員会　兼務委員
開発担当役員　**伊藤淳之介**

国際青年会議所アジア太平洋開発協議会（以下、JCI APDC）はASPACからASPACまでが任期であり、私は2020年度カンボジア・アンコールワット大会から始まり2021年度ASPAC台湾・台中大会までその役を務めました。JCI APDCに出向すると公益社団法人日本青年会議所(以下、JCI日本)との連携を目的として、自動的にアジアアライアンス構築委員会にも兼務委員として出向することになります。JCI APDCは各担当国のNOM/LOMと連携、または新たにNOM ／ LOMを創設し、アジア太平洋地域にJCI運動を伝播させることが主な役割です。LOMの理事会にあたるミーティングは年６回開催され、その場で進捗の報告や共有、方向性の協議がなされます。会議その他のコミュニケーションはJCI APDC内での公用語である英語でのやり取りを基本とします。2020-2021は担当する国が7カ国あり、私の担当はその中のラオス・スリランカでした。渡航制限等により実際に現地に赴くことなく、zoom上で各国メンバーと会議やコミュニケーションを継続して行いましたが、スリランカはオンライン上の会議・事業を開催し会員増強を達成できた一方で、ラオスではメンバーが０になるという厳しい経験もしました。

JCI日本から出向しているメンバーは、各担当国に渡航できない分、日本国内でトレーニングを実施し、大阪、鹿児島、半田等で国際の機会にゆかりの深い先輩方や歴代会頭などからお話を伺い、JCIと国際の機会について理解を深めました。盛岡でのトレーニング開催にあたっては、JCI日本2020年度会頭 石田全史先輩をお招きし、東日本大震災を経て会頭に至るまでの軌跡と何を志してきたかについてお話をお聞きし、JCI運動に向き合う姿勢を学びました。JCI はコロナ禍の2020年度から世界最大のビジネスネットワークであるBNIと協働関係を模索しており、その一環でJCI APDCとBNI JAPANで世界会議横浜大会において、共同セミナーを開催、全世界へ配信し、両団体の全メンバーに対し協働の可能性を認識してもらう機会を創出しました。

2021年度サマーコンファレンスでは担当国の一つであるミャンマーが非常に過酷な状況であることをJCI日本のメンバーに知ってもらうため、JCIミャンマー2021年度会頭･直前会頭、事務総長にオンライン出演して頂くフォーラムを開催しました。オンライン公開はせず現地参加者のみのクローズの状態での開催でしたが、多くの参加者による熱気が伝わり、国際情勢やアジア地域の現状に非常に関心が高まっていることを実感できました。

JCI APDCは個人で得られる国際の機会として最たるものとして認識し出向を志しましたが、渡航制限により想像していた機会であったとは言い難い部分はあります。それでも与えられた環境の中で目的を達成するための試行錯誤によって別の形で発展・成長の機会に巡りあいました。貴重な経験を後押しし、活動を支えて下さった全ての方々に感謝申し上げます。

公益財団法人日本青年会議所　地域グループ
質的価値創造会議
副議長　**髙橋　潤**

質的価値創造会議では、クォリティ国家の確立を目指し、質的価値を生み出す土壌を全国各地につくる運動を展開してまいりました。私たちの活動は2021年野並会頭が政策の一丁目一番地に掲げた、「質的価値創造」について理解を深めることから始まりました。

質的価値とは地域に存在する歴史やモノ、ひとなどの潜在的なストーリーに気付くことで見つけられるオンリーワンの価値とし、その価値にアイディアを加え、共感が広がることで質的価値の創造が成り立っていくと定義しております。

私たちのミッションはこの定義を浸透させ、実践地域を増やすことで、地域の活性化に繋げていくことにあります。当会議では各種大会のフォーラムを担当し､また、運動の推進として毎月定例のブロック連携ミーティングを開催し全国22地区・ブロックに向け各地域での運動の取り組みを共有しながら、新たな実践地域を創出してまいりました。私の担当はPHP総研が発刊する論壇誌Voice に計8回に渡り質的価値創造事例についての情報を発信することであり、全国各地に赴き質的価値の創造を実践してきた方々とお会いし取材させて頂きました。取材する中で、地域の価値はゼロから生み出す必要はなく、気付くこと、改めて認識することが始まりであり、気付いたらわき目を振らず行動することが地域の発展に繋がるのだと気付かせて頂きました。取材した記事は政策シンクタンクPHP総研に全て掲載して頂いております。ご一読頂き、本年の当会議の活動が地域により良い変化をもたらす機会となっていただければ幸いです。最後に、出向の機会を頂いた田屋舘理事長に感謝申し上げます。

公益社団法人日本青年会議所
総務グループ 総務委員会

委員　**鈴木俊太郎**

2021年度日本青年会議所総務委員会に出向させていただきました。総務担当常任理事の麻生将豊君たっての願いを受けての出向という事で盛岡からは私一人での出向でありました。

出向当初、手続きに不備があったのか委員会への参加が若干遅れてしまうという珍しい事態がありましたが、総じて大変実りの多い出向となりました。

総務委員会は日本青年会議所の総会や理事会など会議体の設営、理事会に提出される議案の事前チェック、議事の文字起こしが主な役割です。ですので、日本青年会議所が行う事業やそれが行われるまでの過程を知ることができ、日本青年会議所を身近に感じることができました。

ただ、本年は新型コロナウイルスの影響でZOOMによる委員会開催が多く、直接出向者同士が顔を合わせる機会が少なく、出向の醍醐味である全国のJCメンバーとの交流がほとんど出来ず、その点は残念でありました。

個人的には、JC会館は今の職場からすぐ近くなのですが、本年総務委員会に出向しなければ入館せずに終わっていた可能性が高く、JC会館に入ったこと、会館の職員さんといろいろ話をできたことも貴重な体験でありました。

直接自分たちで事業を行うわけでなく、どちらかと言うと裏方の委員会ですが、広く日本青年会議所を知ることができる委員会で大変勉強になりますので、機会があれば盛岡からも定期的に出向するといいと思いました。

---

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
会務担当（情報共有担当）

副会長　**宮野　祐樹**

本年度、東北地区協議会は、「人と歴史が繋がるナレッジマネジメントと共感が飛び交うプラットフォームの構築」の理念のもと、活動を行って参りました。私は会務担当副会長として情報共有を担当し、県域を越えた広域連携を可能にするプラットフォームの構築がミッションでありました。具体的には、会員拡大委員会、会員定着委員会、防災減災ネットワーク委員会の３つの委員会を統括し、1．東北地区内全メンバーを網羅したメンバーリスト作成、2．会員拡大情報やノウハウを集約したプラットフォーム構築、3．地域ネットワークを活用した災害・疾病ネットワークの構築を行いました。本年の東北地区協議会の特徴として、協議会の事業として運動発信をするのではなく、６ブロック76LOMの下支えとなる情報提供や支援を行い、各地域が活動しやすい環境を創っていくことを第一に活動をして参りました。

１年を通して学んだことは、各地域の違いや規模の違いはあれど、大前提として青年会議所が地域でどう在るべきかを自覚し、組織として理念を共有しながら一貫した運動を展開しなければならないことです。また、そのためには仲間とのつながりややりがいの創出、メンバー一人ひとりの自己実現が必要であることを改めて認識しました。この学びは社会の課題解決にもつながります。今後の人生に活かすことで盛岡青年会議所に恩返しが出来ればと思います。出向の機会を頂き心からの感謝を申し上げます。

---

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
岩手ブロック協議会

副会長　**松本　陽吉**

2021年度日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会の副会長として出向させていただき、ブロック大会運営委員会を担当させていただきました。2021年度の岩手ブロック協議会は八重樫利久会長のもと「心の豊かさ溢れ共感が生まれる岩手の実現」を基本理念に掲げ「ＩＦ　YOU WANT ～ WE CAN BE LEADERS 明日を担う意志 ～」をスローガンに運動を展開してまいりました。本来であれば2020年度に岩手ブロック大会は第50回目を迎える予定ではありましたが新型コロナウイルスの影響で大会が中止となり2021年度の岩手ブロック会員大会ｉｎ陸前高田が第50回の岩手ブロック大会となりました。本大会は市民の皆様にも広く岩手ブロック協議会の運動をご理解いただくことは勿論でしたが、新型コロナウイルスの感染状況がどの様な状況でも開催すること、また各地域の青年会議所会員が共通の意識として岩手の今と未来を考え、社会課題の解決に向けて連携し地域の活性化につなげる機会とするため敢えて会員大会とし、一般社団法人陸前高田青年会議所と共に実施致しました。

ブロック大会運営委員会では、大会統括運営、大会広報活動、ブース出展を担い、大会スローガンである『ＢＯＲＤＥＲＬＥＳＳ』大会コンセプト「ニューノーマルを創出する起点となれ」―感謝と希望を込めて― に込めた想いが広報活動を含め当日の全ファンクションにおいて皆様にご理解いただける様に設営させていただきました。大会の広報活動では岩手県内各地青年会議所理事長と女性会員の皆様を中心としたブロック大会カウントダウン動画を各地青年会議所に作成いただき、男性会員だけではなく女性会員も青年会議所で活躍していることも含めてPRさせていただきました。大会当日では、会員向けファンクションとして「より良いブランディングが我々の運動を変える！～より地域を巻き込み大きな力で～」、一般参加可能なファンクションとして「ＢＯＲＤＥＲＬＥＳＳフォーラム～未来を変えるチカラ～」「東日本大震災復興祈願追悼法要」を開催させていただき、ブース出展では廃プラスチックから来場者の方々と共にアクセサリーを作成する場を設け、環境問題を考える機会とさせていただきました。

2021年度の岩手ブロック大会は様々な節目も重なり様々な想いが込められておりました。第50回目という想い、新型コロナウイルス影響により去年大会を開催することができなかった想い、東日本大震災から10年目で陸前高田の地で開催する想い、だからこそ今後数十年後でも振り返ることのできる普遍的であり目には見えなくとも心の深いところで人として本当に大切なことをお伝えする大会とさせていただきました。この、目には見えない大切な想いが、本大会に携わった全ての方々の心に根付き、今後永きに亘り紡がれていくことになれば幸いでございます。

本当に学び多き一年とさせていただき、本当にありがとうございました。盛岡青年会議所会員そして岩手ブロック協議会メンバーに感謝を申し上げ出向者報告とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
岩手ブロック協議会
いわてJAYCEEアカデミー委員会
塾長　**今野　洋介**

2021年度岩手ブロック協議会 第38期いわてJAYCEEアカデミー委員会に塾長として出向させていただきました。３つの塾からなるアカデミー委員会ですが、今期は県内の昨年入会した70名新入会員がアカデミー生の対象になり参加する運びとなりました。

本年度は、八重樫会長の下、基本理念を「心の豊かさ溢れ共感が生まれる岩手の実現」とし、スローガンには「IF YOU WANT ～ WE CAN BE LEADERS 明日を担う意志 ～」を掲げ一年間活動してまいりました。

２月の開校式は陸前高田の地で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、盛岡、大船渡、陸前高田に別れての進行となりました。第一講座は大船渡より北上に、第二講座をリアル開催より学校内でのハイブリッドに、第三講座を当日、現地よりオンラインに変更して行いました。第四講座・閉校式に関しては、当初は完全オンラインでの設えでしたが、感染症の減少によりハイブリッド形式に設えを変更して開催に変更しての開催することができました。

決めたものが決めた形になかなか進まない中、こんな状況下でも、メイン事業では塾生が市民を巻き込んでの事業を行い、市民より評価の高い声をいただけたのは、塾生一人ひとりが主体性を持ち行動し、オンライン上で仲間と切磋琢磨し、信頼を築けたからだと思います。

最後に卒業年度にこのような貴重な経験をさせていただいたLOMの皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
岩手ブロック協議会総務広報委員会
委員長　**米谷　　猛**

私は今年度、公益社団法人　日本青年会議所　東北地区　岩手ブロック協議会　総務広報委員会の委員長として、基本理念「こころの豊かさ溢れ共感が生まれる岩手の実現」スローガンは「IF YOU WANT ～WE CAN BE LEADERS 明日を担う意志～」のもと活動させていただきました。

総務広報委員会は1年間の各委員会の活動を共にし、事業を推進する為のお手伝いや諸会議の議事録の作成、SNS、HPを使った広報活動、担当事業としては新春のつどいと役員謝恩会の企画と運営をさせていただきました。メインの広報活動に関しましてはSNSのエンゲージメントを増やし我々の運動を周知する事ができました。

2020度は創立50周年の年でしたが新型コロナウイルスの影響を受け、岩手ブロック最大の発信事業であるブロック大会in陸前高田や歴代会長への感謝状授与式なども今年度の私たち岩手ブロック協議会が開催させていただいております。

当初はコロナウイルスの感染が増えていた影響により、ZoomやYouTubeを使って開催をしていましたが、後半にはワクチン接種が全国的にも普及し、通常通りの運営に戻っていき、役員間でのコミュニケーションも取り易くなったと感じております。

また岩手ブロックの各委員会が大切にしていた「開催方法がWEBに切り替わった場合もハイブリット開催を進めていく。」と言う姿勢と弛まぬ努力のお陰で我々の運動を県内の皆様、LOMのメンバーにも周知できたと思います。広報活動を通し、これらの運動に携われたのは非常に喜ばしく思っております。

今年度の私たちの運動と思いが今後の出向者、各地青年会議所の皆様、そして県内の皆様に何かしらの良い変化となっていただければ幸いです。

最後に出向という貴重な体験をさせていただいた田屋舘理事長をはじめとするLOMの皆様、委員会メンバー、ブロック役員の皆様に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

有難う御座いました。

公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会
岩手ブロック協議会
いわてJAYCEEアカデミー委員会
委員　**髙橋　　凌**

2021年度岩手ブロック協議会いわてJAYCEEアカデミー委員会今野塾に塾生として出向致しました。いわてJAYCEEアカデミー委員会は、岩手県内13LOMの入会2年目の方が集まり3塾に分かれ1年を通して事業構築の方法や事業を通して学ぶ場です。本年度はJCI北上の八重樫会長が掲げる「IF YOU WANT ～ WE CAN BE LEADERS 明日を担う意思～」というスローガンの基、これからの地域を担う人財となるべく、活動してきました。2月の開校式をスタートに、3月に北上で課題抽出の方法を学び、5月は岩手県立大学の学生と地域課題の共有・グループワークの実施、8月には大船渡にて5月に行った地域課題を解決する為の事業を展開しました。10月に閉校式を行い1年の活動を終えました。本年度はWithコロナでオンラインとオフラインを融合したハイブリッドの設えの中、県内の青年会議所の方々と直に触れ合い活動することができました。いわてJAYCEEアカデミー委員会では「JCとは何か。」「私たちが青年会議所に入った意味はどこにあるのか」「活動を通してどこに向かっていくのか」を同じ年次の人があつまることで多くの視座から考察し、事業を実際に構築し血肉として蓄えることができる場となります。この経験ができるのはアカデミーだからこそであり、JC生活最初で最後のかけがえのない経験となります。貴重な経験をさせていただいたLOMの皆様、設営で多くの支援をいただきました各LOMの皆様に感謝申し上げ、報告とさせていただきます。

2021年度［監事講評］

# 強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

## 監事　菅原　一法

2021年度の盛岡青年会議所は、田屋舘理事長が掲げたスローガン、「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」を基に活動して参りました。前年から猛威を振るう新型コロナウィルスは本年度の活動にも深く影響し、対面での事業の制限および自粛、また、感染拡大の状況に対応する手段として、事業開催の判断基準に則ったバックアッププランを用意したことなど、事業の構築においてこれまでにない手間と時間が掛かりました。前年度から始まったウィズコロナに対応する事業構築にはまだ不慣れな部分や、手法が確立していない事項も多く、常に模索しながら活動してきた一年だったと思います。

前年に引き続き対面での事業や、対外向けに集客を行う事業は行えず、「盛岡さんさ踊り」も中止になるなど、当初思い描いていた事業を開催出来ず、メンバーがモチベーションを保つことができるか危惧しておりましたが、それは杞憂に終わりました。コロナ禍における最善の活動は何か。地域に貢献するために何ができるか。メンバー1人1人が常に考えたことで、オンラインで行われた各事業とも、より精度が高い事業になったと思います。

事業、会議がオンライン化することでメンバーが参加しやすくなる一方で、コミュニケーションの希薄化も心配しておりましたが、様々な場面でメンバーの表情やメンバー間のやり取りを見て、本年度もメンバー１人１人が、事業構築の中で絆を深めることができたと確信しました。

この１年間、監事という立場から見せていただいたメンバーの皆様の姿は、「理想の未来を描き、挑戦」することを体現しており、私自身非常に強い刺激を頂きました。この世界は過去より続く先人達の無数の挑戦の上で成り立っており、未来もまた、私たち１人１人の挑戦により形作られていくのでしょう。日々変わっていく時代の中で、挑戦することの尊さを再認識することができた1年でした。このような機会を頂きました田屋舘理事長をはじめとするメンバーの皆様に心から感謝を申し上げます。そして、盛岡青年会議所の発展を祈念し、更なる挑戦への激励を持って、監事講評とさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。

## 監事　土樋　梓

未だ新型コロナウイルスの収束が見えぬまま始まった2021年度。そんな時代にあってこそ「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ」というスローガンを掲げ盛岡青年会議所は１年間の活動をスタートさせました。 昨年を踏まえ始めからWITHコロナでの事業設営、感染状況によって事業内容を変更しなければならないなど平時とは違う緊張感をもって設営されていたのではないでしょうか。 また対面ではなくオンラインで事業を構築しなければならない場合もあり、とても難儀なものだったと思います。それでも自分の役割を全うし活動をされた事、変化をマイナスに捉える事無く全て糧にしてこれたのであれば、振り返ってみてこの１年が自分のプラスになったと感じる事が出来たのではないでしょうか。 幸いにも新型コロナウイルスは現時点では収束の方向に向かっており未来に希望をもって2021年を振り返る事ができます。今年のスローガンである「強く、優しく」とは普遍的なテーマです。例えこの先もっと大きな変化が起こったとしても、このスローガンを胸に明るい豊かな社会の実現のために活動して頂きたいと思います。 今後ますます盛岡青年会議所が地域に必要とされる存在になること、プレゼンスを高められる事を願いますが、盛岡青年会議所は教育機関ではありません。所属していれば勝手に成長するという事はありませんし、あくまで自分自身の判断で活動できるのでみんな一緒に手を繋いでという事にはなりません。自分で機会を見つけ掴み行動したものだけがその恩恵に預かれると思っております。眺める場所によって変化する岩手山の様々な魅力のように、青年会議所も関わり方で無限の機会に巡り合う事ができます。出来るだけ多くの機会に触れる事で自分自身を磨いていって欲しいと願います。そしてそれぞれの成長を持ち寄り盛岡青年会議所という器を大きくしていって下さる事を願っております。 基本的に人様を講評するような出来た人間ではありませんが今年は監事という役割をいただき盛岡青年会議所を俯瞰してみる事ができました。機会をいただきました田屋舘理事長をはじめ全てのメンバーの皆様へ心から感謝申し上げます。１年間本当にありがとうございました。

## 監事　松本　陽吉

監事という役割は、これまでとは違う視点から盛岡青年会議所を見ることが必要であり、私にこれまでとは違う新たな学びをあたえてくださいました。2021年度の監事の職を預からせていただけたことに田屋舘真留久理事長をはじめ、会員の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

昨年度の歩みを振り返れば､田屋舘真留久理事長のもと｢強く、優しく ～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」というスローガンを掲げ運動を展開してまいりました。盛岡青年会議所にとって新型コロナウイルスの影響下二年目の年でもあり、盛岡青年会議所会員が安心して活動できるように「一般社団法人盛岡青年会議所新型コロナウイルス状況下における例会・事業開催判断基準(案) 」を策定、運用した年でした。その時々の感情で移り変わる世論の情勢などに左右されず、理事会で審議・承認された開催基準を順守し組織を律し、理事会の総意を持って決めたことを順守する姿、またその中でも柔軟に開催基準の再考を行い理事会で再審議を行う理事の姿は、自らが立ち上がり自らが創りあげる青年会議所の信念の体現そのものだと感じました。また、各委員会事業においても各委員会が与えられたミッションのもと、目前にある問題を解決するための課題を可視化し、エンパワーメント、インクルージョン、レジリエンス、そしてパートナーシップによって、コロナ禍の社会により大きなインパクトを生み出そうと様々な工夫を凝らし、オンラインのメリットデメリット踏まえつつ新型コロナウイルスへのリスクヘッジを行いながら歩みを止めずに活動を全うした一年でもありました。企画･立案･実施した委員会におかれましては大変なご苦労があったこととお察しします。私自身そんな盛岡青年会議所の一員であることを誇りに思った一年でもありました。

最後になりますが、今後はこれまで以上に環境･社会･経済の変化が激しくなり様々な困難も予測されます。しかし、今後どの様な状況になろうとも盛岡青年会議所の伝統である自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨する姿勢の必要性は不変です。昨年度培われた強さと優しさを心に刻み伝統に新しい息吹を吹き込みながらも、先輩の築いた初心をわすれず無限に向かってチャレンジしていただきたいと思います。今後の盛岡青年会議所の益々の発展を祈念し監事講評とさせていただきます。

# 2022年度事業計画

## 幸福へ向けて
## 一歩を踏み出そう

～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～

# 幸福へ向けて一歩を踏み出そう

～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～

幸福へ向けて一歩を踏み出そう
～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～

歳を重ねるにつれ、もりおかの魅力は私の中で今もなお増え続けています。豊かな自然に恵まれ情緒溢れた生活を送り、清らかな川の流れのように穏やかで優しい心を持つひとが住み暮らしているもりおか。少年時代に求めた物質的な豊かさだけでなく、情緒的で文化的な生活そのものがもりおかの魅力であると知るに至りました。今の私があるのは、私を育ててくれたひとがいて、支えてくれたひとがいるおかげです。多くのひとからの無償とも言える愛情を受けて生き、生かされており、感謝の気持ちが溢れてきます。有形無形問わず、もりおかの一つ一つに愛しさと誇りが芽生え、もりおかに住み暮らすひとが世代を超えて幸福な生活を送り続けることを強く願います。私が成すべきことは、自らが起点となって道なき道を切り拓き、このまちのひとに、そして社会全体に幸福をもたらすことです。

私の信じる「明るい豊かな社会」とは、全てのひとが幸福を実感できる社会です。ひとは誰もが自分なりの幸福を求めています。しかし、自己にとっての幸福が必ずしも他者の幸福と同じではない以上、幸福とは非常に主観的であり定義は難しいものです。もし、ひとが認識する幸福は何かと説明するならば、自己で得るものと他者からもたらされるものの二つの要素に分けることができると言えます。この二つの要素のうち、どちらか一方だけが満たされた状態でも幸福を認識できますが、本当の意味での幸福を求めるならば、どちらも満たされる必要があります。自己で得る幸福を増やすためには、ひとそれぞれが在りたい状態を目指し一歩を踏み出すことができる環境が必要です。他者からもたらされる幸福を増やすためには、思いやりの心と共感で互いの違いを認め合える繋がりが必要です。自己で得る幸福を実現するには、他者の幸福を願い、他者を幸福にする行動を起こすことが重要です。つまり、自己で得る幸福と他者からもたらされる幸福は相関関係にあり、両方を満たされなければ全てのひとが幸福を実感できる社会は実現しません。だからこそ、社会を構成する全てのひとが幸福を実感するためには、社会が抱える課題を解決しなければなりません。ひとは自己で得る幸福の選択肢や得るための方法を拡げ、それを実現するために行動することで、他者、地域そして社会へと幸福の輪を繋げていくことができます。そして、自己の幸福と社会全体の幸福が重なった時、全てのひとが幸福を実感できる社会が実現するのです。

地球環境は安定的な気候と生物多様性の基に成り立ち、その急激な変動は個人と社会に大きく影響を与えるため、ひとは個人の幸福と同時に社会全体の幸福を志向しなければなりません。いつの時代も、ひとは利便性を追求することによって技術の進歩、経済の発展とともに豊かな日常を実現させてきました。それに伴い、多くの情報を取得し、個人の実現可能な範囲は拡がり、ひとの価値観は多様化しました。反面、自然環境や生態系の破壊、自然災害や公害の深刻化、あらゆる側面での社会格差など多くの問題を生み、それらは相互に複雑に絡み合っています。また、多量な情報がSNSや動画共有サイトに代表され

一般社団法人盛岡青年会議所　2022年度　第70代理事長
**大和田　祐輔**

るソーシャルメディアから発信され、いつでも取得できるようになり、社会全体の現状をより身近に感じられるようになった結果、私たちは自分たちの地域課題のことを考えるだけではなく、地球規模で社会全体を把握し、その現実に正面から向き合わなければならない時代となりました。そのような時代に呼応するように、複雑に絡み合った社会問題を17個の分野に分け、各々の視座で解決すべき項目である持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals = SDGs)が国連から提示され、世界全体を巻き込む大きなムーブメントに成長しています。日本では、SDGsを根底に据えて、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた社会Society5.0を軸に経済発展と社会課題の解決を両立することで、持続可能な経済及び社会の実現に貢献し、人類の繁栄を目指すという選択を示しています。

私たちの幸福が犠牲の上で成り立っているならば、それは本当に幸福であると言えるでしょうか。利便性が高い社会を実現することを理由に、企業が過度な利益を求めて、大量に化石燃料を経済活動に投じた結果、温室効果ガスが長期間に亘って継続的に排出され、急激な気候変動や大気汚染を引き起こし、自然環境や生態系、私たちの健康、そして経済に多大な影響を与えています。また、経済性を求めるあまり、適正な価格での取引を望めず生産者が適切な収入を得られない事態が起きています。これら経済面の格差だけでなく、十分な所得を得られず、教育や医療における格差も生じています。私たちは、地球環境へ最大限の配慮をし、一人ひとりの自由と権利の享有を妨げずに、社会全体を発展させていかなければなりません。そして、自己だけではなく他者と地球環境を含む社会全体の幸福を目指し、他者への愛情が循環する行動を取ることによって、ひととの繋がりを掛け合わせながら、前向きな変化を促していく社会が全てのひとが幸福を実感できる社会なのです。だからこそ、私たちは互いの尊厳を尊重し、誰一人取り残されない全てのひとが幸福を実感できる社会を目指し一歩を踏み出しましょう。

盛岡青年会議所は、69年間の長きに亘り、修練・奉仕・友情の三信条のもと「明るい豊かな社会」を実現すべく、地域課題の解決に取り組み、ひとづくりを通したまちづくりに対して真摯に向き合ってきました。そして今の盛岡青年会議所があるのは、先輩たちがまちを構成する全てのひとの幸福を追求し、どんな困難があろうとも愛情を注ぐように歩みを進めてきたからです。私たち盛岡青年会議所メンバーは明るい豊かな社会の実現を目指すとともに、先輩たちからの想いを受け継ぐだけではなく、次の世代へ引継ぐ責務があります。そのためには世代を超えて循環する愛情とひとの繋がりを掛け合わせた新たな価値と必要な変化を生み出し、一歩を踏み出せる環境を創る必要があるのです。仲間と共に、この運動に愛情を込めて次の世代へ届けましょう 。全てのひとが幸福を実感できる社会を創るのは私たちです。

【ハイ・スタンダードな成果を上げられるより良い組織に変革する】

組織の成果の源泉は一人ひとりの自己実現であり、成果の高い組織は個人の強みと責任感を最大限に発揮させ、組織のビジョンと個人の行動に共通の方向性を持たせています。全てのひとが幸福を実感できる社会を実現する上で、まずは私たち盛岡青年会議所メンバー一人ひとりが青年会議所の活動を通し、ひととの繋がりや自己成長、ひいては自己実現の実感を得られ、幸福感に満たされながら生き生きと活動できる組織へと変化していく必要があります。世界には多様なひとの特性を活かし能力を最大限引き出すことで成果を上げている企業が既に存在しており、その組織の共通点はチームが協力的且つ心理的安全性が高いと言われています。心理的安全性が高い組

織は、一人ひとりの個性を受け入れ多様な価値観や能力を認め合うことで、パフォーマンスが高く創造性に富みイノベーションが生まれやすい組織であります。また、ありのままの自分を受け入れてくれる環境を整えることで、安心感や自己肯定感を高め、組織へのエンゲージメント向上へと繋がります。健全な衝突（ヘルシー・コンフリクト）を推進し過去のパラダイムから脱却することで、挑戦や率直なディスカッションを促進させ、一人ひとりが自己実現に向け活動しながら、組織としてハイ・スタンダードな成果を上げられるより良い組織に変革します。

**【思いやりの心と共感で互いの違いを認め合える愛情溢れる子供たちを育成する】**

子供たちを取り巻く周囲の行動や活動、さらには生活環境の変化は子供たちの成長に大きな影響を与えますが、最も前向きな成長を促すことができるのは様々な成長の機会に出会い触れることです。そのことにより、子供たちは様々な視点から物事を捉えます。また、五感を研ぎ澄ませながら興味関心のあることに注力して、出会った課題に取り組み続け自己を成長させる力を高めます。そして課題を満足いくまでやり遂げ、達成感を得ることで新たな課題に向け一歩を踏み出します。この繰り返しにより生涯に亘り学び続ける姿勢を身につけるのです。子供たちは次世代を担う存在であり、私たちが目指す明るい豊かな社会の形成者は今の子供たちです。子供たちの成長とともに彼らを取り巻く環境は想像もできない変化をしていきますが、どのような変化が起きようとも彼らは、その先の社会を創造していかなくてはなりません。そのためには、自ら考え選択し行動しながら幸福を感じられる力と失敗や不安を乗り越える力を身につける必要があります。私たちは子供たちに内在している自己の力で成長していく自己教育力、困難や逆境に陥ってもしなやかに回復し乗り越える強靭性（レジリエンス）を育むとともに、思いやりの心と共感で互いの違いを認め合える愛情溢れる子供たちを育成します。

**【社会全体の幸福を目指し、愛情が循環するもりおかを創造する】**

現代社会は非常に豊かになりましたが、全てのひとにとって幸福な社会と言えるでしょうか。産業革命以降、長きに亘る現在世代の欲求のみを満たすための開発によって、急激な気候変動と社会的格差を生んでいます。これからの社会では、将来世代の権利も尊重すべく地球環境へ最大限配慮するとともに一人ひとりの自由と権利を守り、経済中心から人間中心の社会を目指さなければなりません。人間中心の社会では、全てのひとが身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること（ウェルビーイング)の重要性が提唱されています。ウェルビーイングであるためには、繋がりを持つこと、身体的運動を行うこと、スキルを得ようと学ぶこと、他の者に与えること、そして今この瞬間に注目すること（マインドフルネス）が大切だと言われています。日本ではSociety5.0の社会実装が具現化してきていますが、全てのひとにとって幸福な生活を具体的に想像し、ウェルビーイングの実現を根底に据えた技術革新を伴う最適なまちづくりが必要です。互いの違いを認め合える思いやりの心と共感で繋がり、他者への愛情が循環する行動を選択できるひとがまちに溢れることで、全てのひとが幸福を実感できる社会となるのです。そのためのまちづくりには何が必要かを研究し、地域住民・行政・企業・団体と協働を通して愛情が循環するもりおかを創造します。

**【共に高め合う地域社会の創造と国際感覚に優れた人材を育成する】**

国際的な相互依存の深まりの中で、自国や相手国の時代背景や経済状況は互いに大きな影響を与えます。日本は原材料やエネルギーなど、資源の多くを海外からの供給に依存しており、先進国の中でもその依存度が高いという特徴を持つ国です。そのような中で日本社会はモノに溢れ、容易に様々なモノを入手することが可能となりました。しかし、それらの多くは、海外から調達・製造されたものであり、この過程にある現地労働者の不当待遇や児童労働等に起因した人権問題が起きています。また、経済の発展と効率を求めたが故に地球環境へ悪影響を及ぼしています。これらの問題を解消するためには、私たちの経済活動が、ひとや地域、社会にどのような影響を及ぼしているのかを理解しなければなりません。国際情勢を基にその国やひとを理解し、一人ひとりの自由と権利が保たれる環境と、地球環境を含む社会全体の幸福を考えた行動が求められています。また、盛岡青年会議所と羅東國際青年商會は信頼と友情を基にした民間外交から両地域間の理解を深め、共に明るい豊かな社会の実現を目指してきました。私たちは社会全体の幸福のため、相互の繋がりを掛け合わせて地域の課題解決に向けて取り組みます。そして、個人と地域に前向きな変化を促すことで、共に高め合う地域社会の創造と国際感覚に優れた人材を育成します。

**【徹底的なマーケティングを基礎とした広報戦略により、市民意識変革運動の価値を高める】**

多くのひとからの共感を生み出すことは、市民意識変革運動の原動力になります。もりおかのひとにとって幸福とはどんなことか、どのような理想のまちを想い描いているのか、それらの実現にどれだけ近づいているかを私たちが知ることは、共感を生み出すことに不可欠な情報です。もりおかのひとが意識を変革し幸福を実感できる社会を実現するためには、どのような価値を提供すれば良いかを探り、実施する事業でその価値を引き出し、届け、そこから共感を生み出すために必要なマーケティングと戦略的広報を実践しなければいけません。そのために、これまで試行錯誤を繰り返し実践してきた広報手法に加えて、定量的な根拠や事実に基づいて考えた（ファクトフルネス）事業を構築するためのリサーチと分析、地域性と潮流の把握・共有、事業参加者・ボランティアの効果的な募集方法の提案を行います。そして、全てのひとが幸せを実感できる社会の実現のために盛岡青年会議所が果たすべき役割を定義し、誰に、どのような価値を、どのようにして提供するかを徹底的に突き詰めます。そして、企業・行政などあらゆるカウンターパートとのパートナーシップを模索し、リサーチと戦略的な広報部分を担います。さらに、各委員会やプロジェクトチームと連携することで、市民意識変革運動の価値を高めます。

**＜わんぱく相撲プロジェクトチーム＞**

私たちはわんぱく相撲を相撲の試合として勝敗を決めるだけでなく、子供たちが目標を実現するための強い心を育むことや、対戦相手や自分を支えてくれる家族や友人への感謝の心や思いやりの心を養うなど、社会形成者として必要な心情、意欲、態度を身につける機会として開催してきました。また、男女の区別なく子供たちの向上心の育成に取り組み、SDGsを推進する団体としてジェンダー平等の実現に繋げています。本年は長きに亘りわんぱく相撲を通して培った知識と経験を結集し、盛岡青年会議所創立70周年記念事業として、第34回わんぱく相撲盛岡場所を開催します。第34回わんぱく相撲盛岡場所ではこれまでよりもより多くの参加者を募るとともに、力士との相撲体験から礼節を学び、子供たちの心の成長に寄与し、大人たちと子供たちが未来に向かいより強く一歩を踏み出せる機会を提供します。

**＜盛岡さんさ踊りプロジェクトチーム＞**

盛岡青年会議所は長きに亘り、主催団体の一つとして盛岡さんさ踊りに参画し「来て、観て、魅せられ、加わるさんさ」のテーマの基、多くのひとへ地域の魅力を体験できる機会を提供し、その価値を高めることに寄与してきました。盛岡青年会議所はこれまで、国籍、性別、年齢、宗教の違いや障がいの有無に関わらず様々な方々とパレードに参加し、より多様性を持った盛岡さんさ踊りを目指してきました。私たちはこれまでの経験を通して得た知識と経験を基に盛岡青年会議所創立70周年記念事業として、さらに発展させ多様性を持った盛岡さんさ踊りを実施します。全てのひとが参加できる盛岡さんさ踊りの魅力を発信し、全てのひとが幸福を実感できる機会へと繋げます。

**＜創立70周年実行委員会＞**

盛岡青年会議所は長きに亘り歩みを止めることなく、明るい豊かな社会を目指し運動を展開することにより、関係団体との信頼を築いてきました。盛岡青年会議所創立70周年を迎える2022年、先輩たちが繋いできたひとづくりを通したまちづくりの志を学び、これまで盛岡青年会議所の歴史を繋いできた方々へ感謝を伝えるとともに、未来へ向かい新たな一歩を踏み出します。また、盛岡青年会議所が創立65周年に策定した盛岡JC組織ビジョンは5年の節目を迎えます。この5年間で組織ビジョンが組織にどのような変革をもたらしたのかを検証し、組織強化に努め、全てのひとが幸福を実感できる社会へと繋げます。

**＜組織拡大特別委員会＞**

青年会議所は新陳代謝を繰り返し変化し続けています。盛岡青年会議所がこの先も力強い運動を展開するとともに、より良い組織に変化し続けるためには、新たな仲間の力が必要です。特別委員会は委員会の枠を超えこれからの盛岡青年会議所を議論し、組織の発展を担ってきました。本年は、これまで特別委員会で協議を重ねてきたあるべき姿を基に、盛岡青年会議所の未来を担う新たな仲間の輪を拡げます。そして、仲間と共にひとの繋がりを掛け合わせた新たな価値と必要な変化を生み出し、まちにより必要とされる盛岡青年会議所を目指します。

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度

## スローガン

幸福へ向けて一歩を踏み出そう
～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～

## 基 本 理 念

全てのひとが幸福を実感できる社会の実現に向けて、ひととの繋がりを掛け合わせながら、前向きな変化を促し、互いの尊厳を尊重し、誰一人取り残さないために一歩を踏み出せる環境を創る。

## 基 本 方 針

ハイ・スタンダードな成果を上げられるより良い組織に変革する。

思いやりの心と共感で互いの違いを認め合える愛情溢れる子供たちを育成する。

社会全体の幸福を目指し、愛情が循環するもりおかを創造する。

共に高め合う地域社会の創造と国際感覚に優れた人材を育成する。

徹底的なマーケティングを基礎とした広報戦略により、市民意識変革運動の価値を高める。

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度　事業計画

## ・人材開発室

### 【会員開発委員会】
1．会員開発事業の企画・運営
2．仮会員オリエンテーションの企画・運営
3．岩手ブロック大会の情報提供・参加啓発
4．卒業式の企画・運営

### 【次世代育成委員会】
1．次世代育成事業の企画・運営
2．京都会議の情報提供・参加啓発
3．ASPAC（堺／高石）の情報提供・参加啓発
4．わんぱく相撲プロジェクトチームとの連携

## ・社会開発室

### 【地域開発委員会】
1．新年交賀会の企画・運営
2．まちの未来創造事業の企画・運営
3．盛岡さんさ踊りプロジェクトチームとの連携
4．東北青年フォーラム（宮城／栗原）の情報提供・参加啓発

### 【国際社会創造委員会】
1. 国際社会創造事業の企画･運営
2. 羅東國際青年商會との姉妹 JC 交流の企画･運営
3. 世界会議(香港)の情報提供･参加啓発

## ・事業推進室

### 【わんぱく相撲プロジェクトチーム】
1．第34回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営
2．第37回わんぱく相撲全国大会の引率・参加
3．第３回わんぱく相撲女子全国大会の引率・参加

### 【盛岡さんさ踊りプロジェクトチーム】
1．盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営
2．第 45 回盛岡さんさ踊りの企画・運営

## ・戦略広報室

### 【広報戦略委員会】
1．広報戦略に関する取り組みの企画・運営
2．マーケティングとリサーチによる広報支援・連携
3．アニュアルレポートの作成・発行
4．広報誌の作成・発行
5．オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャル SNS アカウントの運営・管理
6．対外事業の宣伝告知管理・提案
7．サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発
8．全国大会（九州大分）の情報提供・参加啓発

## ・専務理事

### 【事務局】
1．組織運営セミナーの企画・運営
2．会員名簿の作成
3．通常総会及び臨時総会の設営
4．総会及び理事会議事録の作成
5．理事会及び常任理事会の設営
6．出向者連絡会議の企画・運営
7．各種渉外受入

## ・常任理事

1．ビジネスマッチングセミナーの企画・運営
2．活動報告例会の企画・運営
3．クリスマス会の企画・運営
4．ポストコロナにおける組織運営マニュアルの策定

## ・特別委員会

### 【組織拡大特別委員会】
1．新しい会員の拡大
2．新入会員育成ツールの作成・活用

### 【創立70周年実行委員会】
1．創立70周年事業の企画・運営
2．組織中短期ビジョン・戦略の検証・立案

# 会員開発委員会

副理事長　**山口　雄司**
室　長　**佐々木裕一**
委員長　**中嶋　政裕**

**1．基本方針**

これまで盛岡青年会議所に所属してきたメンバーは､限られた在籍期間の中で様々な運動を通して自己成長してきました。これからもメンバー全員が明るい豊かな社会の実現に向かって行動し続けるためには、一人ひとりの個性と多様な価値観が調和し、お互いの違いを認め合える環境が重要です。

私たちは、率直に意見の発信ができる環境を創出し、あらゆる状況で個性を発揮できる人材の育成に寄与します。これにより心理的安全性の高い組織となることでより良い成果を上げ、関わる全てのひと、そして社会全体が幸福を感じられる環境を創造します。

**2．事業計画･予算（案）**

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額(一般) | 予算額(その他) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 会員開発事業の企画･運営 | | | 61,000円 | | |
| 1.1. アテンダンスカードの作成 | | 通年 | 0円 | | |
| 1.2. 理事長面接及び定款説明の企画･運営 | | 通年 | 0円 | | |
| 1.3. 第1回会員開発事業の企画･運営 | | 4月 | 20,000円 | | |
| 1.4. 第2回会員開発事業の企画･運営 | | 8月 | 41,000円 | | |
| 2. 仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | | 60,000円 | | |
| 2.1 第1回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | 3月 | 20,000円 | | |
| 2.2. 第2回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | 6月 | 20,000円 | | |
| 2.3. 第3回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | 10月 | 20,000円 | | |
| 3. 卒業式の企画･運営 | | | 580,000円 | | |
| 3.1. 卒業式の企画･運営 | | 12月 | 580,000円 | | 12月例会 |
| 4. 岩手ﾌﾞﾛｯｸ大会(宮古)の情報提供･参加啓発 | | | 0円 | | |
| 4.1.岩手ﾌﾞﾛｯｸ大会(宮古)の情報提供･参加啓発 | | 7月(予定) | 0円 | | |
| 合　計 | | | 701,000円 | | |

※事業の詳細については別紙参照

**3．年間スケジュール**

| 事業名 ＼ 期間 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1. アテンダンスカードの作成 | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 報告 |
| 1.2. 理事長面接及び定款説明の企画･運営 | | 準備・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 報告 |
| 1.3. 第1回会員開発事業の企画･運営 | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 | | | | | | |
| 1.4. 第2回会員開発事業の企画･運営 | | | | | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 | | |
| 2.1. 第1回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 | | | | | | | |
| 2.2. 第2回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 | | | | |
| 2.3. 第3回仮会員ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝの企画･運営 | | | | | | | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 |
| 3.1. 卒業式の企画･運営 | | | | | | | | | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施<br>報告 |
| 4.1. 岩手ﾌﾞﾛｯｸ大会(宮古)の情報提供･参加啓発 | | | | | | | 準備・・・ | ・・・ | ・・・ | 実施・・・ | ・・・ | 報告 | | | |

# 次世代育成委員会

副理事長　**山口　雄司**
室　長　**佐々木裕一**
委員長　**山内　圭介**

## 1．基本方針

技術の進歩と経済の発展により、子供たちは様々な成長の機会に触れることが出来るようになり、夢や目標を自由に選択できる幅が拡がりました。子供たちは、多様な選択肢の中から自分の興味があることを見つけ、夢を描き目標を立てていきます。そして、その夢や目標に向かって夢中に取り組み、やり遂げることで得る達成感から更なる意欲が沸き、新たな挑戦を続けていきます。

子供たちが挑戦することで得る喜びは周りの喜びや活力となり、循環することで社会に前向きな変化をもたらします。私たちは、この先の社会を担う子供たちの育成のため、自ら選択し挑戦できる環境を創出していきます。

## 2．事業計画・予算（案）

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 次世代育成事業の企画・運営 | | | 260,000円 | | |
| 1.1. 第1回次世代育成事業の企画・運営 | 7（3）、(4) | 5月 | 140,000円 | | 5月例会 |
| 1.2. 第2回次世代育成事業の企画・運営 | 7（3）、(4) | 9月 | 120,000円 | | |
| 2. 京都会議の情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 2.1. 京都会議の情報提供・参加啓発 | | 1月 | 0円 | | |
| 3. ASPAC（堺/高石）の情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 3.1. ASPAC（堺/高石）の情報提供・参加啓発 | | 6月 | 0円 | | |
| 4. わんぱく相撲プロジェクトチームとの連携 | | | 0円 | | |
| 4.1. わんぱく相撲プロジェクトチームとの連携 | | 6 ～ 10月 | 0円 | | |
| 合　計 | | | 260,000円 | | |

※事業の詳細については別紙参照

## 3．年間スケジュール

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1. 第1回次世代育成事業の企画・運営 | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | | |
| 1.2. 第2回次世代育成事業の企画・運営 | | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | |
| 2.1. 京都会議の情報提供・参加啓発 | | 準備 | ・・・・ | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | | | | | | |
| 3.1. ASPAC（堺/高石）の情報提供・参加啓発 | | | | | | | 準備 | ・・・・ | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | |
| 4.1. わんぱく相撲プロジェクトチームとの連携 | | | | | | | | | 実施 | | 実施 | | 実施 | | |

# 地域開発委員会

副理事長　**池野　利彦**
室　長　**松浦　直人**
委員長　**菅原　直紀**

## 1．基本方針

私たちは、利便性を追求することで経済を発展させ、豊かな日常を実現させてきました。しかし現代では、経済発展を起因とする地球環境問題や社会格差などが生じています。

社会を構成しているのはそこに住み暮らすひとです。社会の課題を解決してまちを持続的に発展させていくためには、住み暮らす多様なひとが一人ひとりの違いを認め、思いやりをもち、自分の幸福とは何かを研究し理解することが必要です。私たちは、地域住民・行政・企業・団体と協働し、各々が利己と利他の心を共創することで、幸福が重なり合う社会を目指します。

## 2．事業計画・予算（案）

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 新年交賀会の企画・運営 | | | 580,000円 | | |
| 1.1. 新年交賀会の企画・運営 | | 1月 | 580,000円 | | 1月例会 |
| 2.まちの未来創造事業の企画・運営 | | | 462,000円 | | |
| 2.1. まちの未来創造事業Ⅰの企画・運営 | | 5月 | 91,000円 | | |
| 2.2. まちの未来創造事業Ⅱの企画・運営 | 19(3)、(4) | 7月 | 371,000円 | | 7月例会 |
| 3. 盛岡さんさ踊りプロジェクトチームとの連携 | | | 0円 | | |
| 3.1. 盛岡さんさ踊りプロジェクトチームとの連携 | | 6 ～ 8月 | 0円 | | |
| 4. 東北青年フォーラム(宮城/栗原)の情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 4.1. 東北青年フォーラム(宮城/栗原)の情報提供・参加啓発 | | 9月 | 0円 | | |
| 合　計 | | | 1,042,000円 | | |

※事業の詳細については別紙参照

## 3．年間スケジュール

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1. 新年交賀会の企画・運営 | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | | | | | | |
| 2.1. まちの未来創造事業1の企画・運営 | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | | |
| 2.2. まちの未来創造事業2の企画・運営 | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | |
| 3.1. 盛岡さんさ踊りプロジェクトチームとの連携 | | | | | | | | | 実施 | 実施 | 実施 | | | | |
| 4.1. 東北青年フォーラム(宮城・栗原)の情報提供・参加啓発 | | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | |

# 国際社会創造委員会

副理事長　**池野　利彦**
室　長　**松浦　直人**
委員長　**小野寺数馬**

## 1．基本方針

世界経済の発展により私たちが幸福を得る一方で、犠牲になっている人々がおり、トレードオフの現状が問題になっております。全ての人が幸福を実感するためには、私たちが世界で起きている人権問題や環境問題を自分事として理解し、他者とフェアトレードの実現することが必要です。

盛岡青年会議所は、これまで民間外交を通して多様な文化と交わり、価値観の違いを受け入れてきました。私たちはボーダーレスな視点で物事を捉えて、民間外交を積極的に推進する団体として、人が対等に尊重しあう世界の実現を目指します。

## 2．事業計画・予算（案）

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 国際社会創造事業の企画・運営 | | | 137,000円 | | |
| 1.1. 国際社会創造事業の企画・運営 | 19(3) | 4月 | 137,000円 | | 4月例会 |
| 2. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流の企画・運営 | | | 599,000円 | | |
| 2.1. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流の企画・運営 | | 8月 | 59,000円 | | |
| 2.2. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流の企画・運営 | | 10月 | 540,000円 | | |
| 3. 世界会議（/）の情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 3.1. 世界会議（/）の情報提供・参加啓発 | | 11月 | 0円 | | |
| 合　計 | | | 736,000円 | | |

※事業の詳細については別紙参照

## 3．年間スケジュール

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1. 国際社会創造事業の企画・運営 | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | | | |
| 2.1. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流の企画・運営 | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | |
| 2.2. 羅東國際青年商會との姉妹JC交流の企画・運営 | | | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 |
| 3.1. 世界会議（香港）の情報提供・参加啓発 | | | | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | 報告 |

# わんぱく相撲プロジェクトチーム

副理事長　**照井　和弘**
室長　**立花　　唯**
リーダー　**中村　沙綾**

## 1．基本方針

私たちはわんぱく相撲を相撲の試合として勝敗を決めるだけでなく、子供たちが目標を実現するための強い心を育むことや、対戦相手や自分を支えてくれる家族や友人への感謝の心や思いやりの心を養うなど、社会形成者として必要な心情、意欲、態度を身につける機会として開催してきました。また、男女の区別なく子供たちの向上心の育成に取り組み、SDGsを推進する団体としてジェンダー平等の実現に繋げています。本年は長きに亘りわんぱく相撲を通して培った知識と経験を結集し、盛岡青年会議所創立70周年記念事業として、第34回わんぱく相撲盛岡場所を開催します。第34回わんぱく相撲盛岡場所ではこれまでよりもより多くの参加者を募るとともに、力士との相撲体験から礼節を学び、子供たちの心の成長に寄与し、大人たちと子供たちが未来に向かいより強く一歩を踏み出せる機会を提供します。

## 2．事業計画・予算（案）

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 第34回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営 | | | | 610,000円 | |
| 1.1 第34回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営 | 9（15） | 6月 | | 610,000円 | 6月例会（公益特会） |
| 2. 第37回わんぱく相撲全国大会の引率・参加 | | | | 95,000円 | |
| 2.1 第37回わんぱく相撲全国大会の引率・参加 | 9（15） | 10月 | | 95,000円 | 公益特会 |
| 3. 第3回わんぱく相撲女子全国大会の引率・参加 | | | | 330,000円 | |
| 3.1 第3回わんぱく相撲女子全国大会の引率・参加 | 9（15） | 8月 | | 330,000円 | 公益特会 |
| 合　計 | | | | 1,035,000円 | |

※事業の詳細については別紙参照

## 3．年間スケジュール

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2020 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1 第34回わんぱく相撲盛岡場所の企画・運営 | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | | |
| 2.1 第37回わんぱく相撲全国大会の引率・参加 | | | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 |
| 3.1 第3回わんぱく相撲女子全国大会の引率・参加 | | | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | |

# 盛岡さんさ踊りプロジェクトチーム

副理事長　**照井　和弘**
室長　**立花　　唯**
リーダー　**立花　　唯**

## 1．基本方針

盛岡青年会議所は長きに亘り、主催団体の一つとして盛岡さんさ踊りに参画し「来て、観て、魅せられ、加わるさんさ」のテーマの基、多くのひとへ地域の魅力を体験できる機会を提供し、その価値を高めることに寄与してきました。盛岡青年会議所はこれまで、国籍、性別、年齢、宗教の違いや障がいの有無に関わらず様々な方々とパレードに参加し、より多様性を持った盛岡さんさ踊りを目指してきました。私たちはこれまでの経験を通して得た知識と経験を基に盛岡青年会議所創立70周年記念事業として、さらに発展させ多様性を持った盛岡さんさ踊りを実施します。全てのひとが参加できる盛岡さんさ踊りの魅力を発信し、全てのひとが幸福を実感できる機会へと繋げます。

## 2．事業計画・予算（案）

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営 | | | | 62,000円 | （公益特会） |
| 1.1 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営 | 19（4） | 6～7月 | | 62,000円 | |
| 2. 第45回盛岡さんさ踊りの企画・運営 | | | | 1,310,000円 | （公益特会） |
| 2.1 第45回盛岡さんさ踊りの企画・運営 | 19（4） | 8月 | | 1,310,000円 | 8月例会<br>（公益特会） |
| 合　計 | | | | 1,372,000円 | |

※事業の詳細については別紙参照

## 3．年間スケジュール

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1. 盛岡さんさ踊り練習会の企画・運営 | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・ | | 実施 | 実施 | ・・・・ | 報告 | | | |
| 2.1. 第45回盛岡さんさ踊りの企画・運営 | | | | | | 準備 | ・・・・・・・・・・・・・・・・・ | | | | 実施 | ・・・・ | 報告 | | |

# 広報戦略委員会

専務理事　髙橋　　潤
委員長　里　　裕一

**1．基本方針**

盛岡青年会議所（以下、JCI盛岡）は、明るい豊かな社会を実現するため、これまで多くの運動を地域に展開してきました。私たちは、さらに多くのひとからJCI盛岡の運動に賛同いただくため、もりおかに住み暮らすひとに対して一層興味関心を高め、より共感いただける情報を届ける必要があります。

私たちは、会員一人ひとりが先入観にとらわれることなく、事実に基づく情報を多角的な視点で読み取り、より多くのひとから共感をいただくことができる情報となるよう追求し、もりおかに住み暮らすひとへ感動をもたらす広報を展開してまいります。

**2．事業計画・予算（案）**

| 事業計画 | 公益該当項目 | 開催月 | 予算額（一般） | 予算額（その他） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 広報戦略に関する取り組みの企画・運営 | | | 22,000円 | | |
| 1.1 広報戦略に関する取り組みの企画・運営 | | 3月 | 22,000円 | | 3月例会 |
| 2. マーケティングとリサーチによる広報支援・連携 | | | 0円 | | |
| 2.1 マーケティングとリサーチによる広報支援・連携 | | 通年 | 0円 | | |
| 3. アニュアルレポートの作成・発行 | | | 451,000円 | | |
| 3.1 アニュアルレポートの作成・発行 | | 1月 | 451,000円 | | |
| 4. 広報誌の作成・発行 | | | 389,000円 | | |
| 4.1 広報誌特別号の作成・発行 | | 1月 | 309,000円 | | |
| 4.2 広報誌通常号の作成・発行 | | 6月 | 80,000円 | | |
| 5. オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理 | | | 0円 | | |
| 5.1 オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理 | | 通年 | 0円 | | |
| 6. 対外事業の宣伝告知管理・提案 | | | 63,000円 | | |
| 6.1 対外事業の宣伝告知管理・提案 | | 通年 | 63,000円 | | |
| 7. サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 7.1 サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発 | | 7月 | 0円 | | |
| 8. 全国大会(九州大分)の情報提供・参加啓発 | | | 0円 | | |
| 8.1 全国大会(九州大分)の情報提供・参加啓発 | | 10月 | 0円 | | |
| 合　計 | | | 925,000円 | | |

※事業の詳細については別紙参照

**3．年間スケジュール**

| 期間 / 事業名 | 2021 10 | 11 | 12 | 2022 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.1 広報戦略に関する取り組みの企画・運営 | | | 準備 | ・・・ | ・・・ | 実施 | ・・・ | 報告 | | | | | | | |
| 2.1 マーケティングとリサーチによる広報支援・連携 | | | 準備 | 通年 | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 報告 |
| 3.1アニュアルレポート作成・発行 | 準備 | ・・・ | ・・・ | 実施 | ・・・ | 報告 | | | | | | | | | |
| 4.1 広報誌特別号の作成・発行 | 準備 | ・・・ | ・・・ | 実施 | ・・・ | 報告 | | | | | | | | | |
| 4.2 広報誌通常号の作成・発行 | | | | | | 準備 | ・・・ | ・・・ | 実施 | ・・・ | 報告 | | | | |
| 5.1 オフィシャルウェブサイトおよびオフィシャルSNSアカウントの運営・管理 | | 準備 | ・・・ | 通年 | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 報告 |
| 6.1 対外事業の宣伝告知管理・提案 | | | 準備 | 通年 | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | ・・・ | 報告 |
| 7.1 サマーコンファレンスの情報提供・参加啓発 | | | | | | | | | 準備 | 実施 | 報告 | | | | |
| 8.1 全国大会(九州大分)の情報提供・参加啓発 | | | | | | | | | | | | 準備 | 実施 | 報告 | |

# 〈公益事業23項目〉

学術、芸術、事前その他の公益に関する別表各号に掲げる種類の事業であって、「不特定」かつ「多数」の者への利益増進に寄与するもの。

1、学術及び科学技術の振興を目的とする事業
2、文化及び芸術の振興を目的とする事業
3、障害者もしくは生活困窮者又は事故、災害もしくは犯罪による被害者の支援を目的とする事業
4、高齢者の福祉の増進を目的とする事業
5、勤労意欲のある者に対する就労の支援を目的とする事業
6、公衆衛生の向上を目的とする事業
7、児童又は青少年の健全の育成を目的とする事業
8、勤労者の福祉の向上を目的とする事業
9、教育、スポーツ等を通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性の涵養を目的とする事業
10、犯罪防止又は治安の維持を目的とする事業
11、事故又は災害の防止を目的とする事業
12、人種、性別その他の事由による不当な差別又は偏見の防止を目的とする事業
13、思想及び良心の自由、信仰の自由又は表現の自由の尊重又は擁護を目的とする事業
14、男女共同参画社会の形成その他のより良い社会の形成の推進を目的とする事業
15、国際相互理解の促進及び発展途上にある海外の地域に対する経済協力を目的とする事業
16、地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的とする事業
17、国土の利用、整備又は保全を目的とする事業
18、国政の健全な運営の確保に資することを目的とする事業
19、地域社会の健全な発展を目的とする事業
20、公正かつ自由な経済活動の機会の確保及び促進並びにその活性化による国民生活の安定向上を目的とする事業
21、国民生活に不可欠な物資、エネルギー等の安定供給の確保を目的とする事業
22、一般消費者の利益の擁護又は増進を目的とする事業
23、上記のほか、公益に関する事業として政令で定めるもの

| 事業区分 | |
|---|---|
| ⑴ 検査検定 | 申請に応じて、主として製品等の安全性、性能等について、一定の基準に適合しているかの検査を行い、当該基準に適合していれば当該製品の安全性等を認証する事業のことである。 |
| ⑵ 資格付与 | 申請者の技能・技術等について、一定の水準に達しているかの試験を行い、達していれば申請者に対して資格を付与する事業のことである。 |
| ⑶ 講座、セミナー、育成 | 受講者を募り、専門的知識・技能等の普及や人材の育成を行う事業のことである。 |
| ⑷ 体験活動等 | 公益目的のテーマを定め、比較的短期間の体験を通じて啓発、知識の普及等を行う事業のことである。 |
| ⑸ 相談、助言 | 相談に応じて、助言や斡旋その他の支援を行う事業のことである。 |
| ⑹ 調査、資料収集 | あるテーマを定めて、法人内外の資源を活用して、意識や実態等についての調査、資料収集又は当該調査の結果その他の必要な情報を基に分析を行う事業のことである。 |
| ⑺ 技術開発、研究開発 | あるテーマを定めて、法人内外の資源を活用して技術等の開発を行う事業のことである。なお、成果については、成果の発表や論文の発表を行うとともに、知的財産権の取得を行うのが一般的である。 |
| ⑻ キャンペーン、○○月間 | ポスター、新聞その他の各種広報媒体等を活用し、一定期間に集中して、特定のテーマについて対外的な啓発活動を行う事業のことである。 |
| ⑼ 展示会、○○ショー | 展示という手段により、特定のテーマについて対外的な啓発・普及活動を行う事業（文化及び芸術の振興に係る事業を除く。）のことである。比較的短期間であるため、法人が会場を借り上げ、ブースを出展者に貸す場合が多い。 |
| ⑽ 博物館等の展示 | 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集・保管し、展示を行う事業のことである。 |
| ⑾ 施設の貸与 | 公益目的のため、一定の施設を個人、事業者等に貸与する事業のことである。 |
| ⑿ 資金貸付、債務保証等 | 公益目的で個人や事業者に対する資金貸付や債務保証等を行う事業のことである。 |
| ⒀ 助成 | 応募・選考を経て、公益目的で、個人や団体に対して資金を含む財産価値のあるものを原則として無償で提供する事業のことである。 |
| ⒁ 表彰、コンクール | 作品・人物等表彰の候補を募集し、選考を経て、優れた作品・人物等を表彰する事業のことである。 |
| ⒂ 競技会 | スポーツ等の競技を行う大会を開催する事業のことである。 |
| ⒃ 自主公演 | 法人が、自らの専門分野について制作した作品を演じ、又は演奏する事業のことである。 |
| ⒄ 主催公演 | 法人が、主として外部制作の公演の選定を行い、主催者として当該公演を実施する事業のことである。 |

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度　当初予算

**2022年1月1日から2022年12月31日まで**

（単位：円）

| 科　　目 | 2022年度予算額 | 2021年度予算額 | 増　減 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ事業活動収支の部 | | | | |
| 1.事業活動収入 | | | | |
| ①特定資産運用収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 特定資産利息収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ②入会金収入 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | |
| 入会金収入 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | 30,000円×40名 |
| ③会費収入 | 12,460,000 | 13,920,000 | -1,460,000 | |
| 正会員会費収入 | 11,780,000 | 13,040,000 | -1,260,000 | |
| 正会員年会費 | 8,640,000 | 9,960,000 | -1,320,000 | 120,000円×72名 |
| 正会員（休会者） | 180,000 | 120,000 | 60,000 | 60,000円×3名 |
| 新入会員 | 1,760,000 | 1,760,000 | 0 | 月割計算×40名 |
| 仮会員 | 1,200,000 | 1,200,000 | 0 | 3ヶ月で入会（10,000y/m×40名） |
| 特別会員会費収入 | 680,000 | 880,000 | -200,000 | 40,000円×17　　卒業生17名 |
| 賛助会員会費収入 | 0 | | 0 | |
| ④事業収入 | 1,300,000 | 1,313,500 | -13,500 | |
| 事業費繰入収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 登録料収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 販売収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 業務受託収入 | 1,186,000 | 1,186,000 | 0 | "岩手B事務局委託費1,036,000円<br>シニアクラブ委託費150,000円" |
| 家賃・会議室料収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 112,500 | 127,500 | -15,000 | 会員名簿￥1,500×75名 |
| ⑤補助金等収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 国庫補助金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 地方公共団体補助金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 民間補助金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 国庫助成金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 地方公共団体助成金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 民間助成金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑥寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 募金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ⑦雑収入 | 100,700 | 100,700 | 0 | |
| 受取利息収入 | 700 | 700 | 0 | |
| その他雑収入 | 100,000 | 100,000 | 0 | お祝い金など |
| 事業活動収入計 | 15,059,200 | 16,534,200 | -1,475,000 | |
| 2.事業活動支出 | | | 0 | |
| ①事業費支出 | 4,647,200 | 3,510,500 | 1,136,700 | |
| 事業費支出 | 4,447,200 | 3,278,500 | 1,168,700 | |
| 例会・事業活動等 | 450,000 | 150,000 | 300,000 | 常任理事会・事務局設営事業 |
| 会員開発委員会 | 701,000 | 680,000 | 21,000 | 2021会員拡大委員会 |
| 次世代育成委員会 | 260,000 | 60,000 | 200,000 | 2021次世代育成委員会 |
| 地域開発委員会 | 1,042,000 | 1,073,000 | -31,000 | 2021地域開発委員会 |
| 国際社会創造委員会 | 736,000 | 222,500 | 513,500 | 2021国際社会創造委員会 |
| 広報戦略委員会 | 925,000 | 943,000 | -18,000 | 2021ＪＣブランディング委員会 |
| 組織拡大特別委員会 | 3,200 | 0 | 3,200 | |
| 創立70周年特別委員会 | 330,000 | 0 | 330,000 | ※参考　2017　創立65周年特別委員会 |
| | 0 | 150,000 | -150,000 | 2021未来構想特別委員会 |
| 委員会運営費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業予備費支出 | 200,000 | 232,000 | -32,000 | |

| 科　　目 | 2022年度予算額 | 2021年度予算額 | 増　減 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| ②管理費支出 | 7,518,058 | 9,644,825 | -2,126,767 | |
| 会議費支出 | 110,000 | 110,000 | 0 | |
| 総会費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 総会費用 |
| 各種会議費 | 10,000 | 10,000 | 0 | 各種会議費 |
| 給与手当支出 | 2,500,000 | 4,300,000 | -1,800,000 | 給与＋一時金 |
| 福利厚生費支出 | 500,000 | 1,000,000 | -500,000 | "事務局員厚生年金・雇用保険<br>健康保険・中退金・事務局健康診断" |
| 旅費交通費支出 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 通信・発送費支出 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 消耗品費支出 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 会員支給品費支出 | 640,000 | 640,000 | 0 | |
| 会員名簿作成費 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| バッジ・ネームプレート購入費 | 140,000 | 140,000 | 0 | バッチ￥1,800　プレート￥1,700　40名 |
| リース料支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 修繕費支出 | 80,000 | 100,000 | -20,000 | |
| 光熱水道費支出 | 424,000 | 424,000 | 0 | |
| 賃借料支出 | 1,320,000 | 1,320,000 | 0 | 事務所賃貸料￥110,000×　12ヶ月 |
| 業務委託料支出 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| インフォメーション関係費 | 366,000 | 100,000 | 266,000 | ホームページ制作・運営費<br>(基本料金・ドメイン・レンタルサーバー),ZOOM |
| 租税公課支出 | 72,000 | 72,000 | 0 | |
| 渉外費支出 | 320,000 | 351,000 | -31,000 | |
| 各種大会登録料 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 他団体会費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 他団体交流関係費 | 200,000 | 231,000 | -31,000 | |
| 冠婚葬祭関係支出 | 60,000 | 60,000 | 0 | お酒、慶弔、お祝い金など |
| 復興支援対応費 | 0 | 0 | 0 | |
| ブース出展費 | 0 | 0 | 0 | 各種大会 |
| バス代 | 0 | 0 | 0 | 各種大会 |
| 雑支出 | 50,000 | 100,000 | -50,000 | |
| 管理・運営予備費 | 134,558 | 127,825 | 6,733 | |
| ③負担金支出 | 1,915,442 | 2,398,875 | -483,433 | |
| ＪＣＩ負担 | 186,992 | 201,500 | -14,508 | |
| 日本ＪＣ負担金 | 500,000 | 595,000 | -95,000 | 基本額および付加金 |
| 地区協議会負担金 | 119,000 | 214,500 | -95,500 | |
| ブロック協議会負担金 | 470,000 | 755,000 | -285,000 | |
| 国際協力資金 | 211,700 | 228,125 | -16,425 | |
| 日本ＪＣ出向者負担金 | 140,000 | 100,000 | 40,000 | |
| We Believe購読料 | 267,750 | 294,750 | -27,000 | |
| 東北地区出向者負担金 | 20,000 | 10,000 | 10,000 | |
| ④他会計へ繰越金支出 | 980,000 | 980,000 | 0 | |
| 特別会計への繰入金支出 | 980,000 | 980,000 | 0 | 積立金管理特別会計へ |
| 事業活動支出計 | 15,059,200 | 16,534,200 | -1,475,000 | |
| 事業活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |

| 科　　目 | 2022年度予算額 | 2021年度予算額 | 増　減 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅱ投資活動収支の部 | | | | |
| 1.投資活動収入 | | | | |
| ①特定資産取崩し収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 災害積立資産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ○○事業積立資産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ②固定資産売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 土地売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 建物売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 構築物売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 車輌運搬具売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 什器備品売却収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ③固定資産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 減価償却積立資産取崩収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ④敷金・保証金戻り収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 敷金戻り収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2.投資活動支出 | | | | |
| ①特定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 災害積立資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| ○○事業積立資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| ②固定資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 土地購入支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 建物取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 構築物取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 車輌運搬具取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 什器備品取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 減価償却積立資産取得支出 | 0 | 0 | 0 | |
| ③敷金・保証金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 敷金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| Ⅲ財務活動収支の部 | | | | |
| 1.財務活動収入 | | | | |
| ①借入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 投資活動収入計 | 0 | 0 | 0 | |
| 2.財務活動支出 | | | | |
| ①借入金返済支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 財務活動収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| Ⅳ予備費支出 | | | | |
| 当期収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 前期繰越収支差額 | 0 | 0 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 0 | 0 | |

# 2022年度　公益目的支出計画管理特別会計　収支予算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

（単位：円）

| 科　　目 | 当年度予算額 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| Ⅰ事業活動収支の部 | | |
| 1.事業活動収入 | | |
| ⑤補助金等収入 | 400,000 | |
| 国庫補助金収入 | 0 | |
| 地方公共団体補助金収入 | 0 | |
| 民間補助金収入 | 400,000 | 盛岡さんさ踊り実行委員会より |
| 国庫助成金収入 | 0 | |
| 地方公共団体助成金収入 | 0 | |
| 民間助成金収入 | 0 | |
| ⑦雑収入 | 0 | |
| 受取利息収入 | 0 | |
| その他雑収入 | 0 | |
| ⑧他会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 本会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 他の特別会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 委員会事業会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 400,000 | |
| 2.事業活動支出 | | |
| ①事業費支出 | 2,407,000 | |
| わんぱく相撲プロジェクトチーム | 1,035,000 | わんぱく盛岡610,000円、わんぱく男子全国95,000円、わんぱく女子全国330,000円 |
| 盛岡さんさ踊りプロジェクトチーム | 1,372,000 | さんさ踊り練習会62,000円、盛岡さんさ踊り（8月例会）1,310,000円 |
| ④他会計へ繰越金支出 | 0 | |
| 特別会計への繰入金支出 | 0 | |
| 事業活動支出計 | 2,407,000 | |
| 当期収支差額 | -2,007,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 28,956,974 | |
| 次期繰越収支差額 | 26,949,974 | |

# 2022年度　特別事業支出積立金管理特別会計　収支予算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

（単位：円）

| 科　　目 | 当年度予算額 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| Ⅰ事業活動収支の部 | | |
| 1.事業活動収入 | | |
| ④事業収入 | 0 | |
| 事業費繰入収入 | 0 | |
| 登録料収入 | 0 | |
| 販売収入 | 0 | |
| 業務受託収入 | 0 | |
| 家賃・会議室料収入 | 0 | |
| 雑収入 | 0 | |
| ⑦雑収入 | 0 | |
| 受取利息収入 | 0 | |
| その他雑収入 | 0 | |
| ⑧他会計からの繰入金収入 | 980,000 | |
| 本会計からの繰入金収入 | 980,000 | |
| 他の特別会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 委員会事業会計からの繰入金収入 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 980,000 | |
| 2.事業活動支出 | | |
| ①事業費支出 | 0 | |
| 委員会 | 0 | |
| ②管理費支出 | 0 | |
| 修繕費支出 | 0 | |
| 渉外費支出 | 0 | |
| 国際交流促進費 | 0 | |
| 管理・運営予備費 | 0 | |
| ④他会計へ繰越金支出 | 0 | |
| 本会計への繰入金支出 | 0 | |
| 特別会計への繰入金支出 | 0 | |
| 委員会事業会計への繰入金支出 | 0 | |
| 事業活動支出計 | 0 | |
| 当期収支差額 | 980,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 7,460,530 | |
| 次期繰越収支差額 | 8,440,530 | |

# 2022年度　収益事業管理特別会計　収支予算書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

（単位：円）

| 科　　目 | 2022年度予算額 | 2021年度予算額 | 増　減 | 摘　　要 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ事業活動収支の部 | | | | |
| 1.事業活動収入 | | | | |
| ①事業収入 | 40,000 | 60,000 | -20,000 | |
| 事業費繰入収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 登録料収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 販売収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 販売手数料収入 | 40,000 | 60,000 | -20,000 | 自動販売機販売　売上×20% |
| 業務受託収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 家賃・会議室料収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ②雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 受取利息収入 | 0 | 0 | 0 | |
| その他雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| ③他会計からの繰入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 本会計からの繰入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 他の特別会計からの繰入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 委員会事業会計からの繰入金収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動収入計 | 40,000 | 60,000 | -20,000 | |
| 2.事業活動支出 | | | | |
| ①事業費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 委員会 | 0 | 0 | 0 | |
| ②管理費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 修繕費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 渉外費支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 管理・運営予備費 | 0 | 0 | 0 | |
| ③他会計へ繰越金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 本会計への繰入金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 特別会計への繰入金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 委員会事業会計への繰入金支出 | 0 | 0 | 0 | |
| 事業活動支出計 | 0 | 0 | 0 | |
| 当期収支差額 | 40,000 | 60,000 | -20,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 244,200 | 184,200 | 60,000 | |
| 次期繰越収支差額 | 284,200 | 244,200 | 40,000 | |

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度　役員･役職名簿

■役員

| | |
|---|---|
| 理事長 | 大和田　祐　輔 |
| 副理事長 | 山　口　雄　司 |
| 副理事長 | 池　野　利　彦 |
| 副理事長 | 照　井　和　弘 |
| 専務理事 | 髙　橋　　潤(14) |
| 室長 | 佐々木　裕　一 |
| 室長 | 松　浦　直　人 |
| 室長 | 立　花　　唯 |
| 理事 | 中　嶋　政　裕 |
| 理事 | 山　内　圭　介 |
| 理事 | 菅　原　直　紀 |
| 理事 | 小野寺　数　馬 |
| 理事 | 里　　裕　一 |
| 出向理事 | 川　村　芳　仁 |
| 事務局長 | 髙　橋　　凌 |
| 事務局次長 | 瀬　川　天　子 |
| 事務局次長 | 照　井　淳　史 |
| 事務局次長 | 福　田　和　晃 |

| | |
|---|---|
| 監事 | 豊　岡　　淳 |
| 監事 | 服　部　　達 |
| 監事 | 藤　原　大　修 |

■顧問･直前理事長

| | |
|---|---|
| 顧問 | 伊　藤　淳之介 |
| 直前理事長 | 田屋舘　真留久 |

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度　出向者名簿

■公益社団法人日本青年会議所（７名）

| | | |
|---|---|---|
| 経済グループ　スポーツの力委員会 | 委　員 | 照井　和弘 |
| 国際グループ　グローバルネットワーク創造会議 | 副 議 長 | 伊藤淳之介 |
| | 小 幹 事 | 鈴木　七恵 |
| | 委　員 | 鈴木俊太郎 |
| | 委　員 | 長瀬　智也 |
| | 委　員 | 宮野　洵弥 |
| | 委　員 | 米内　紘正 |

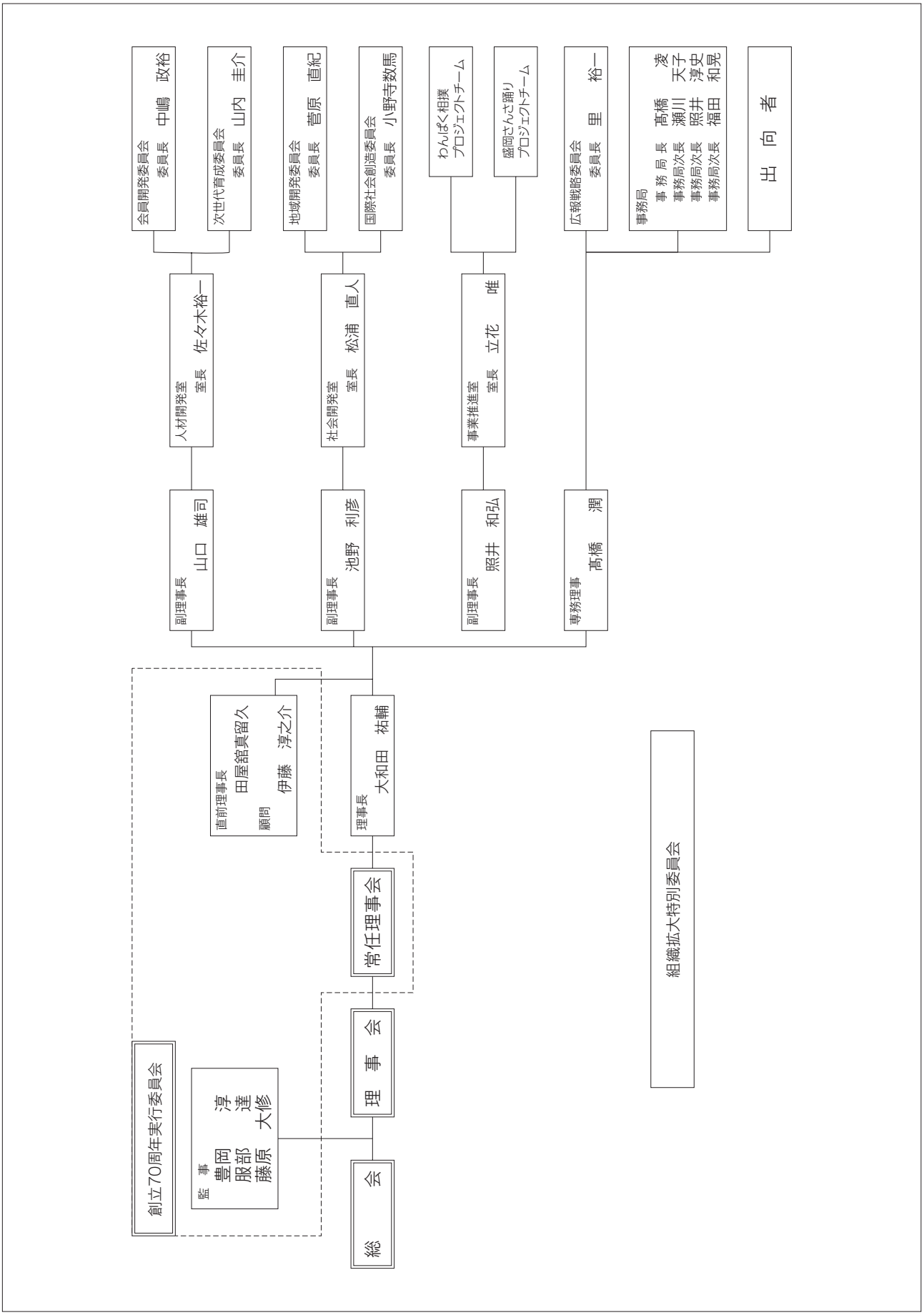
■公益社団法人日本青年会議所　東北地区協議会（１名）

| | | |
|---|---|---|
| 広域連携グループネットワーク構築委員会 | 委 員 長 | 照井　和弘 |

公益社団法人日本青年会議所　東北地区岩手ブロック協議会（24 名）

| | | |
|---|---|---|
| | 監査担当役員 | 伊藤淳之介 |
| | 副会長 | 豊岡　　淳 |
| 総務広報委員会 | 委員長 | 川村　芳仁 |
| | 委　員 | 北條　　宏 |
| | 委　員 | 沼田　　悟 |
| | 委　員 | 田向　康人 |
| 事務局 | 事務局次長 | 小倉　征也 |
| いわてJAYCEEアカデミー委員会 | 委　員 | 及川　和明 |
| | 委　員 | 小野寺数馬 |
| | 委　員 | 菅　　洋介 |
| | 委　員 | 菊地　美紀 |
| | 委　員 | 木津川隼己 |
| | 委　員 | 佐藤　志学 |
| | 委　員 | 下河原　伸 |
| | 委　員 | 鈴木　　亮 |
| | 委　員 | 瀬川　天子 |
| | 委　員 | 千葉　潤也 |
| | 委　員 | 照井　淳史 |
| | 委　員 | 鳥居さゆみ |
| | 委　員 | 中村　沙綾 |
| | 委　員 | 晴山　敬俊 |
| | 委　員 | 福田　一臣 |
| | 委　員 | 藤原　勇介 |
| | 委　員 | 宮野　洵弥 |

# 一般社団法人 盛岡青年会議所　2022年度　組織図



# 2022年度　年間スケジュール

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盛岡 | 常任理事会 | 14日(金) | 8日(火) | 8日(火) | 5日(火) | 10日(火) | 7日(火) |
| | 理事会 | 28日(金) | 22日(火) | 22日(火) | 19日(火) | 24日(火) | 21日(火) |
| 岩手ブロック協議会 | 正副会長会議 | | | | | | |
| | 役員会議 | 12日(水) | 10日(木) | 9日(水) | 6日(水) | 6日(金) | 1日(水) |
| | 会員会議所会議 | 29日(土)<br>【北上】 | 26日(土)<br>【水沢】 | 19日(土)<br>【陸前高田】 | 23日(土)<br>【江刺】 | 22日(日)<br>【釜石】 | 18日(土)<br>【花巻】 |
| | ブロック行事 | | 5日(土)<br>新春のつどい<br>【遠野】 | | | | |
| | ＪＡＹＣＥＥ<br>アカデミー | | 5日(土)<br>開校式<br>【遠野】 | 5日(土)<br>第1講座<br>【　　】 | | 14日(土)<br>第2講座<br>【　　】 | |
| | 各ＬＯＭ事業 | | | | | | |
| 東北地区協議会 | 正副会長会議 | 11日(火)<br>【ＷＥＢ】 | 7日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 7日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 4日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 9日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 6日(月)<br>【ＷＥＢ】 |
| | 正副拡大会議 | 19日(水)<br>【山形Ｂ】 | 16日(水)<br>【北上】 | 16日(水)<br>【仙台】 | 13日(水)<br>【湯沢】 | 18日(水)<br>【山形Ｂ】 | 15日(水)<br>【福島】 |
| | 財政コンプライアンス審査会議 | 26日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 23日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 23日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 20日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 25日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 22日(水)<br>【ＷＥＢ】 |
| | 役員会議 | 31日(月)<br>【いわき】 | 27日(月)<br>【大館】 | 28日(月)<br>【青森】 | 25日(月)<br>【遠野】 | 30日(月)<br>【原町】 | 27日(月)<br>【山形】 |
| | 会員会議所会議 | 21日(金)<br>【京都】 | | | | | |
| | 地区行事 | | | | | | |
| ラインミーティング<br>(月初) | | 6日(木)<br>(ＪＣ会館) | 3日(木)<br>(ＪＣ会館)<br>24日(木)<br>(ＪＣ会館) | 30日(水)<br>(ＪＣ会館) | | 6日(金)<br>(ＪＣ会館) | 2日(木)<br>(ＪＣ会館)<br>30日(木)<br>(ＪＣ会館) |
| 正副会頭ミーティング<br>(月中／ＷＥＢ) | | 13日(木)<br>(ＷＥＢ) | 10日(木)<br>(ＷＥＢ) | 4日(金)<br>(ＷＥＢ) | 8日(金)<br>(ＷＥＢ) | 12日(木)<br>(ＷＥＢ) | 9日(木)<br>(ＷＥＢ) |
| 常任理事会 | | 14日(金)<br>(ＪＣ会館) | 18日(金)<br>(ＪＣ会館) | 10日(木)<br>(ＪＣ会館) | 15日(金)<br>(ＪＣ会館) | 20日(金)<br>(ＪＣ会館) | 24日(金)<br>(ＪＣ会館) |
| 理事会 | | 21日(金)<br>(京都) | 19日(土)<br>(ＪＣ会館) | 11日(金)<br>(ＪＣ会館) | 16日(土)<br>(ＪＣ会館) | 21日(土)<br>(ＪＣ会館) | 25日(土)<br>(ＪＣ会館) |
| 総会 | | 22日(土)<br>(京都) | | 26日(土)<br>(未定) | | | |
| ＪＣＩ諸会議 | | JCI常任理事会/理事会<br>(JCI JEM/JBM) | | | | アフリカ・中東地域会議<br>11日(水) ～14日(土)<br>アメリカ地域会議<br>25日(水) ～28日(土)<br>アジア・太平洋地域会議<br>26日(木)～29日(日) | ヨーロッパ地域会議<br>13日(月)~19日(日) |
| ＮＯＭ主要事業 | | 京都会議<br>(京都)<br>20日(木)<br>～23日(日) | | | | | |
| 財政審査会議 | | 8日(土) | 5日(土)<br>26日(土) | | 2日(土) | 8日(日) | 4日(土) |
| 公益審査会議 | | 8日(土) | 5日(土)<br>26日(土) | | 2日(土) | 8日(日) | 4日(土) |
| コンプライアンス<br>審査会議 | | 8日(土) | 5日(土)<br>26日(土) | | 2日(土) | 8日(日) | 4日(土) |
| 広報審査会議 | | 8日(土) | 5日(土)<br>26日(土) | | 2日(土) | 8日(日) | 4日(土) |
| その他 | | ＪＣＩ諸会議・大会　開催地<br>【ＪＣＩ常任理事会/理事会】アメリカ(セントルイス)　【中間常任理事会】アメリカ(セントルイス)　【アフリカ・中東地域会議】ブルキナファソ(ウガドゥグー) | | | | | |

# 2022年度　年間スケジュール

| | | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 盛岡 | 常任理事会 | 5日(火) | 9日(火) | 6日(火) | 4日(火) | 8日(火) | 8日(木) |
| | 理事会 | 19日(火) | 23日(火) | 20日(火) | 18日(火) | 22日(火) | 19日(月) |
| 岩手ブロック協議会 | 正副会長会議 | | | | | | |
| | 役員会議 | | 3日(水) | 7日(水) | 5日(水) | 9日(水) | 1日(木) |
| | 会員会議所会議 | | 27日(土)<br>【一関】 | 24日(土)<br>【カシオペア】 | 23日(日)<br>【大船渡】 | 26日(土)<br>【遠野】 | 10日(土)<br>【盛岡】 |
| | ブロック行事 | 9日(土)<br>ブロック大会<br>【陸中宮古】 | | | | 26日(土)<br>謝恩会<br>【遠野】 | |
| | ＪＡＹＣＥＥ<br>アカデミー | | 20日(土)<br>第3講座<br>【　　】 | | 22日(土)<br>第4講座・閉校式<br>【大船渡】 | | |
| | 各ＬＯＭ事業 | | | | | | |
| 東北地区協議会 | 正副会長会議 | 4日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 1日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 5日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 3日(月)<br>【ＷＥＢ】 | 7日(月)<br>【ＷＥＢ】 | |
| | 正副拡大会議 | 12日(火)<br>【秋田】 | 10日(水)<br>【盛岡】 | 14日(水)<br>【秋田Ｂ】 | 12日(水)<br>【山形Ｂ】 | 16日(水)<br>【郡山】 | |
| | 財政コンプライアンス審査会議 | 20日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 24日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 21日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 19日(水)<br>【ＷＥＢ】 | 23日(水)<br>【ＷＥＢ】 | |
| | 役員会議 | 25日(月)<br>【八戸】 | 29日(月)<br>【大曲】 | 26日(月)<br>【気仙沼】 | 24日(月)<br>【猪苗代】 | 28日(月)<br>【一関】 | |
| | 会員会議所会議 | | | | | 【一関】 | |
| | 地区行事 | | | 9月1日(木)～<br>9月3日(土)<br>東北青年フォーラム<br>【栗原】 | | | |
| ラインミーティング<br>(月初) | | | | 1日(木)<br>(ＪＣ会館)<br>22日(木)<br>(ＪＣ会館) | 27日(木)<br>(ＪＣ会館) | | 8日(木)<br>(ＪＣ会館) |
| 正副会頭ミーティング<br>(月中／ＷＥＢ) | | 7日(木)<br>(ＷＥＢ) | | 8日(木)<br>(ＷＥＢ) | | 4日(金)<br>(ＷＥＢ) | 15日(木)<br>(ＷＥＢ) |
| 常任理事会 | | 14日(木)<br>(ＪＣ会館) | | 16日(金)<br>(ＪＣ会館) | 6日(木)<br>(大分) | 18日(金)<br>(ＪＣ会館) | 16日(金)<br>(ＪＣ会館) |
| 理事会 | | 15日(金)<br>(未定) | | 17日(土)<br>(ＪＣ会館) | 8日(土)<br>(大分) | 19日(土)<br>(ＪＣ会館) | 17日(土)<br>(ＪＣ会館) |
| 総会 | | | | | 8日(土)<br>(大分) | | |
| ＪＣＩ諸会議 | | JCI中間常任理事会<br>(JCI MYE) | | | JCI世界会議<br>(未定)<br>31日(月) | JCI世界会議<br>(未定)<br>～4日(金) | |
| ＮＯＭ主要事業 | | 国際アカデミー<br>6日(水)~10日(日)<br>サマーコンファレンス<br>(横浜)<br>16日(土) ~17日(日) | | | 全国大会<br>(大分)<br>7日(金)<br>～10日(月) | | |
| 財政審査会議 | | 2日(土) | | 3日(土)<br>24日(オ) | 29日(土) | | 10日(土) |
| 公益審査会議 | | 2日(土) | | 3日(土)<br>24日(オ) | 29日(土) | | 10日(土) |
| コンプライアンス<br>審査会議 | | 2日(土) | | 3日(土)<br>24日(オ) | 29日(土) | | 10日(土) |
| 広報審査会議 | | 2日(土) | | 3日(土)<br>24日(オ) | 29日(土) | | 10日(土) |
| その他 | | 【アメリカ地域会議】キュラソー(ウィレムスタッド)　【アジア・太平洋地域会議】日本(堺高石)<br>【ヨーロッパ地域会議】ベルギー(ブルージュ)　【世界会議】香港 | | | | | |